

60
809

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15

始





讀本

越智眞

良き子寶は如何にして得べきか
子寶なき人々への福音

逸正
14. 11. 13
内交

誰か荆棘より葡萄をとり、薊より無花果を探ることをせん。凡て善樹は善果を結び、悪樹は悪果を結び。善樹は悪果を結ばず、悪樹は善果を結ぶこと能ざる也。(馬太傳第七章)

序文

諺に「千の藏より子は寶」と云ふことがあります。然し同じ子寶にも、良い子寶もあれば又、悪い子寶もあります。本書は如何にせば最も優良なる子寶を得べきかを説いたものでありまして、其立論の根據は優生學 Eugenics 及び、遺傳論 Vererbungslehre の學說でありまして、其他に尙最新の醫學を加味せること勿論であります。

元來、優生學及遺傳論は頗る深遠なる學說であります。本書に於ては専ら其眞髓を完全に消化し、之を平易にして理解し易き様記述せるのみならず、我國現代の社會生活をも深く顧みて、能く學理と實際との調和を企

圖せんことに勉めたのであります。故に本書の内容は所謂學者の空論として斥くべきものでなく、言々句々、適切周到なる文字であると堅く自信する次第であります。

願はくは世上、幾多未婚の青年紳士淑女よ、配偶の選擇如何は實に貴重なる人生の禍福榮辱の岐るゝ處たるのみならず、更に其善惡は遠く子孫に遺傳するものなるを思ひ、慎重なるが上にも尙慎重の態度を以て、臨まれんことを切望致します。之れ優良なる子寶を得べき最も大切な心得であります。

又、是等、紳士、淑女の兩親たる方々よ、愛兒の行末遠き眞の幸福を想はるゝならば、徒らに社會の惡しき風俗習慣に囚はるゝことなく、不道理

なる義理人情に絡まるゝの愚を學ばず、黄金や地位門閥の如きに迷はされず、深く、冷靜なる學理の教ふる處と複雑なる周圍の實際とを顧み、何れに最も正しき調和點を見出すべきかを考慮せられんことを切望する次第であります。是れ、即、愛兒の幸福を求むる第一の道たるのみならず、最も優れたる子孫を得て家門の繁榮を來すべき最良の方法であります。

既に結婚生活に入れる人々よ、卿等は如何にして良き子寶を擧げんかと願はるゝであります。遺傳の法則は嚴として、あらゆる生物を司配して居りますが、而も適當なる心得さへあらば、優秀なる遺傳素因は益々之を發達せしめ得ると共に不良劣惡なる遺傳素因をも或程度まで、能く之を絶滅せしめ得ます。故に卿等の執るべき方法如何によりて、良き子寶も惡

しき子寶も生れ出づるのであります。願はくは本書の内容を熟讀して、良き子寶を得るに最善の方法を講ぜられんことを熱望する次第であります。又、廣く社會の改良指導に任ぜらるゝ學者、宗教家、教育家、文筆の士、篤志の諸彦よ、願はくは、如何にして社會の淨化を謀り、人間最高の理想を實現すべきかに關し、其參考の一端にも供せられ、正しく誤りなき方針を説き示されんことを切に惓願する次第であります。之れやがて社會人類の幸福を増進し國家の隆昌を來すべき根本となるのであります。

大正十四年九月廿九日

京都醫大教授

醫學博士 越智眞逸 識

越智眞逸 識

目次

一 緒言.....1

二 良き子寶を得るには遺傳を注意せねばならぬ。.....9

- (一) 結核の遺傳.....一九
- (二) 癩病の遺傳.....三四
- (三) 精神病の遺傳.....四〇
- (四) 精神薄弱の遺傳.....四三
- (五) 梅毒の遺傳.....四六
- (六) 癌の遺傳.....五一
- (七) アルコール中毒の遺傳.....五六
- (八) 腦溢血の遺傳.....六一

(九) 癲癇の遺傳……………二七
 (一〇) 雙啞の遺傳……………二九
 (一一) 色盲の遺傳……………三三
 (一二) 近視の遺傳……………三六
 (一三) 血友病の遺傳……………三九
 (一四) 糖尿病の遺傳……………四二
 (一五) 尿崩症の遺傳……………四七
 (一六) 畸形の遺傳……………四九
 (一七) 壽命の遺傳……………五二
 (一八) 血族結婚の害……………五六
 (一九) 精神的性質の遺傳……………五九

三 良き子寶を得るには結婚の時期を注意せねばならぬ。……………三三

(一) 日本人の結婚に適當なる年齢……………三五
 (二) 早婚の弊害……………三三
 (三) 晩婚の弊害……………三四

(四) 男女年齢の差異……………三六

四 良き子寶を得るには胎教に注意せねばならぬ。……………三六

附 子寶なき人々への福音……………三六

(一) 子寶なき婦人の悲み……………三六
 (二) 不妊症が如何に多いか……………三六
 (三) 不妊症とは何か……………三七
 (四) 不妊の原因……………三九
 (甲) 男子に原因の存する場合……………三九
 (乙) 女子に原因の存する場合……………四〇
 (五) 不妊の夫婦は如何すればよいか……………四〇
 (六) 人工妊娠術の話……………四〇

良き子寶は
如何にして得べきか

一 緒 言

獨逸の有名なる金言に、

「人の一生にて、最も大切なる瞬間は、各自の生存が更に始まらんとするの時、即ち、両親の生殖細胞が相合せんとするの瞬間である」

1

“Der wichtigste Augenblick im Leben eines jeden Menschen ist das Moment, in welchem seine individuelle Existenz beginnt, es ist der Augenblick, in welchem die Geschlechtszellen der beiden Eltern zusammentreffen”

と云ふことがあります。實にや吾人の此世に於て成すべきことの多かる中に優良なる子孫を設けること程大切なる事業はないであります。又、此時ばかり大切なる瞬間も無いこと、信じます。若し、誤つて白痴、低能、聾啞、畸形兒等を産みしと假定せば兩親家族の歎きは如何ばかりでしょうか、富貴顯榮、出で、は萬人に仰がれ、入つては大夏高樓に住むとも、其想ひ一度、憐むべき愛兒に及ぶ時、胸中、無限の悲痛に苦むことではありません。又、此等の愛兒がやがて年頃ともなりて物心のつくに及んでは如何ばかりか親を恨み、己れを悲しみ、身も世もあらぬ悲嘆に沈むことではありません。それ故、親たる者は僅かばかりの財寶や、空に等しき地位や名譽や、一顧の價値なき門閥の如きを子孫に傳へんと腕き苦むよりも、寧ろ、如何にして優良なる肉體的竝に精神的性質

をば、やがて生るべき己が愛兒に傳へんかと企圖すべきが眞に意義あることでは無いではありませんか。

諸氏は己が庭園に菊を植ゑ、「コスモス」や朝顔の種を播くにさへ、非常なる苦心を費して、其苗を撰み、種子を吟味するではありませんか。又、牧畜業者が乳牛や種馬を購入するに當つては其血統に周密なる注意を拂ひ數代にさかのぼつて迄も血統證明書を調査するではありませんか、是れ皆、優良なる草花や優秀なる牛馬を得んとするの希望に外ならんのであります。

然し乍ら庭園の草花や、家畜の如きは吾々の大切なる子孫に比すれば殆んど一顧の價値なきものに過ぎません。然るに關らず世人の多くは、かゝる些々たる事柄に驚くべき程、忠實眞面目であるに、婚姻の對手を

物色するに當りては随分無頓着であり或は非常識であるのは何故であり
ましようか。

或人々は黄金の光に迷はされて悪しき娘を娶ることはありませんか。
されば紀元前六世紀の頃、ギリシャの詩人セオグニスに既に之を歌つて
居ります。

『われ等は羊驢馬の良種を求む

而して良種は良種を生む。

さあれ人間社會にありては

良種を得んと願ふも

尙財産に迷はされて悪しき娘を娶り

爲めに人類種族は惡種に汚され行く』

(福原博士譯)

又、或人々は娘の美容に迷はされて、其胸に恐るべき結核菌の潜める
ことに氣附かない者はありませんでしょうか。

又、取るにも足らぬ門閥に惚れ込みて、そこに代々の血族結婚による
恐るべき惡魔の、密に牙を磨いて居るのを知らぬ人々は無いではありません
ようか。

其他、之に類することは數へ來り擧げ來らば盡くるの時がないこと
信じます。

然らば如何にして此の最高至聖の事業を完成し得るでしょうか。之は
實に現代の最も進歩せる科學殊に醫學の教ふる處に従つて、合理的に研
究せられたる理論に立脚せねばならぬのであります。吾人は從來の風俗、

習慣等を全然排斥する者ではありませんが、中には随分、如何がほしいと思はるゝもの、有害と信せらるゝもの、人道を無視せるもの等數多く有るやに考へられます。故に私は飽くまで深遠なる現代の科學を基礎とし、更に本邦古來の風習をも顧慮し、斟酌しつゝ、「良き子實は如何にして得べきか」と云ふことに就て論じて見たいと思ひます。若し讀者諸彦の參考の一助ともなり、各自に於て之を應用せられ、或は進んで廣く社會に宣傳さるゝならば獨り私人の快心事たるに止まらず實に國家社會の絶大なる慶福であると信するのであります。

凡そ、良き子實を得るには、少なくとも三つの注意を要します。即ち第一は結婚前の注意、換言せば配偶の選擇であります。恰も草花を植ゆるに種子を選び、家畜を求むるに其血統を調査するにも當ります。若

し、配偶の選擇を誤りたらば如何にして優良なる子實を設けることが出来るでありません。故に如何なる方針の下に婚姻の對手を選びべきかを熟知する必要が絶対に肝要であります。

第二には結婚の時期であります。如何に優良なる配偶でありましたも、若し、結婚の時期にして不適當であつたならば優良なる子實を得ることは非常に困難であります。恰も草花の種子を季節を違へて播くにも當ります。斯くては如何でか、美しき花を開き實を結ばしむることが出来ましよう。故に、結婚の最も適當なる年齢如何、夫婦の年齢の差異等に就て學理上、適當なる時期を研究することが肝要であります。

第三には、胎教であります。換言せば妊娠中の肉體的及精神的の心得であります。元來母親の胎兒に及ぼす影響が如何に多大であるかは後文

述ぶる如くであります。優良なる子寶を得んとするには胎教に關する理論を能く了解し且、之を實行せねばなりません。出産後の乳兒養育法も勿論必要ではありませんが、之に關しては世上幾多の著述もあり、又、現代の進歩せる家庭に於ては既に多く實行され、且、世人の熟知せる處でありますから、之が記述は省略致します。

最後に子寶なき不幸なる人々の爲めに一文を添ふることに致しました。廣き世上には、良き子寶も悪しき子寶もなく、初めより更に愛兒の産れない悲惨なる不妊の夫婦が少なくありません。私は是等同情すべき家庭への一大福音とも心得て、最新の學理に基ける所説を盡と致します。

二 良き子寶を得るには遺傳を 注意せねばならぬ

如何にして優良なる子寶を得べきかを論ずるには、どうしても遺傳に關する理論と實際とを説明せねばなりません。既に申し上げた通り我々は庭園に菊や「ダリヤ」の如き草花を植ゆるにさへ其苗や種子の優良なるものを選ぶではありませんか。又、牧畜業者が種馬や乳牛を購入するにさへ絶大の注意を拂ひ大金を擲つて血統の優秀なるものを求むるではありませんか。況してや、我々大切なる人生の営みに於て生涯の伴侶となり、更に子々孫々に迄重大なる影響を及ぼすべき婚姻の相手を選定する

に、夢更らおろそかにすべきものでありましようか。遺傳學の知識は實に動植物の優良なる種屬を選むと同様に婚姻の相手を選択すべき最も重要な羅針盤であります。實に遺傳學の知識なくしては結婚問題を論ずるの資格なく、従つて優良なる子寶を設くることも出来ないのであります。

元來、遺傳學と云ふものは之をむづかしく論ずれば非常に深遠なる學問であつて容易に理解し難いものでありますが、之を平易に説明すれば何人にも了解し得るのみでなく、如何に興味あり且、肝要にして有益なるものであるかを感じらるゝことゝ信じます。

遺傳とは、兩親又は祖先の形體や性質が子孫に傳はつて、再び發現して來ることを云ふのであります。即、子供が父親、母親、或は祖父母等

に肖るのは遺傳に基くのであります。但、其肖方は、身體的に肖ることもあれば又、精神的性質を受繼ぐこともあり、又、疾病或は疾病に罹り易い素質を傳へらるゝこともあります。何れにもせよ兩親又は祖先の肉體的及精神的性質は何等かの形で、幾分かは必ず子孫に遺傳するものであります。之れ、遺傳學の大切な理由であります。

然らば斯くの如き遺傳を子孫に傳へるものは何であるかと云ふに、勿論、生殖細胞即、男子の精蟲と女子の卵子であることは云ふまでもありません。然し乍ら、精蟲、及卵子の全部が之を傳へることはありませぬ。即、精蟲及卵子の中に核と云ふ部分があつて、之の核の中に更に染色體(クロモゾーム Chromosomen)と云ふ物質が含有せられて居る。

この染色體が次代、三代、四代と傳つて遺傳現象を呈するものと信せら

れて居ります。

而して遺傳の行はるゝ方法には種々ありますが、主としてメンデルの方則に従ふものと信ぜられて居ります。メンデル Mendel はオースタリヤに生れた有名なる遺傳學者で今も猶立派なる銅像が建設せられて、不朽の名譽を放つて居ります。メンデルの方則を平易に説明しますと、「遺傳物質と云ふものは常に離合集散して諸種の遺傳現象を生ずるのである。そして、遺傳物質中には優性なるものと劣性なるものがあつて、この兩者相結び付く時、劣性のもものは優性のもものに蔽はれて一時、其姿を匿してゐるも、後代に至つて再び出現する。所謂優劣法則に従ふのである」との論であります。之を更にわかり易く説明すれば左の通りであります。

今、茲に一組の夫婦があると假定します。そして男子即父の方が總てに於て優良なる遺傳物質を有して居り、女子即母の方が、肉體的にも精神的性質も劣悪なる遺傳物質を有して居るとします。そして之を假りに符號にて現はし、父方の優良なる遺傳物質をば大なるAAにて示し、母方の劣悪なる遺傳物質を小なるbbにて現はすとします。すると之の両親より生れたる子供は次の如き遺傳物質を受け繼ぐことゝなります。

$$AA \times bb = Ab + Ab + Ab + Ab$$

即、是等の子供は、何れも両親の性質を受けては居るが、此際、優性は劣性を蔽ふて居るが故、何れかと云へば父方の優良なる性質に肖て居ります。然し乍ら更に斯かる遺傳物質を有せる男女が親となりて次代の子供を生むと假定しますと次の如き結果を生じます。

$$Ab \times Ab = AA + Ab + bA + bb$$

即ち子供の中にはAAと云ふ様な優良なる性質のみを受け継いだ者もあれば、反對にbbと云ふ如き劣悪不良なる性質のみ遺傳されたる者も生ずる譯であります。諸氏は靜かに考へて御覽なさい。自分は果してAA、bb、の何れを兩親より傳へられたであらうか、又、AA、bb、の何れを子孫に傳へ或は近き將來に傳へんとするの運命にあるかを。願くばAAを受け継ぎ且、AAを傳へんとするの人々であつて欲しいのであります。

次に尙、一言したきは『一代に獲得せし性質は果して子孫に遺傳するや否や』と云ふ問題であります。即ち茲に一組の夫婦ありと致します。是等の男女は何れも其兩親より種々の遺傳素因を享け継げること勿論であります、之の遺傳素因は何等の變化を受くることなくして其まゝ子

孫に傳はるものでありましようか、或は又、男女その人の一生に於て何等かの變化を受けて、之の變化されたる遺傳物質が子孫に傳はるものでありましようか。換言せば一代に獲得せし性質は果して子孫に遺傳するものでありましようか。之は學問そのものとして肝要なるのみでなく、實に優良なる子實を得んと志す人々に取りて絶対に必要なる重大事でありあります。

是に關しては現今二つの重なる學説があります。即ち甲は遺傳物質は變化せないとの説であります。例へば兩親が劣悪なる遺傳素因を子供に遺傳したと假定しますと、之の子供が如何に、苦心してその不良なる遺傳單位を改良し或は絶滅せんと勉むるとも、該物質は何等の變化を蒙むることなく、其まゝ更に子孫に傳はり行くものであるとの説であります。

若し之の説にして眞なりと假定するならば、吾人の努力は全然徒勞でありまして、胎教も、教育事業も、社會改良事業も、道德の振興も、果又、優生學の唱道も、悉く一切無用の長物と云ふべきであります。即、優秀なる遺傳素因を享け継げる人は何處までも優良であり且、その秀れたる遺傳素因を子孫に傳へることになります。反之、不幸にして劣悪なる遺傳素因を兩親より授かれる人々は、どこ〜までも不良性を帯びて居り、如何なる方法を以てするも之を改良することが出来ないと云ふのであるから、斯かる者に社會又は國家は大金を投じて、教育を施し、宗教家道德家は之に神の道を説くの必要を認めなくなるのであります。

反之、乙は遺傳物質は一定の變化を受くるものであると論じて居ります。例へばラマールク Lamarck の如き其有力なる一人であります。即、

祖先より傳はれる遺傳物質は其人の一代に於て或程度まで變化せしめ得るのみならず、其人の生涯に於て新たな遺傳物質をも生じ得るとの説であります。若し之の説が眞なりとせば、或程度まで、吾人は祖先より享有せる遺傳物質の中、優秀なるものは益々、之を發達せしめ、劣悪なるものを絶滅減少せしめ、更に自己の一生に於て優れたる遺傳素因を生りて之を愛兒に傳へ得ることゝなります。

以上二つの所説の中、私は飽くまで後説を信するものであります。之を學理上より考へ又、實際上に照して、遺傳素因と云ふものは代を重ねるに従つて、全然絶滅はしないが、而も多少の變化を呈して行くものと信じます。又、其人の一生に於て得たる優秀なる肉體的及精神的の性質も或程度までは子孫に遺傳する代りに、又、不良劣悪なる性質も遺傳す

るご考へます。

以上は遺傳に關する理論的方面の大體であります。次には實際問題としての遺傳に就て肝要なる事項に就て述べたいと思ひます。之は、實地上、非常に重要な事柄でありますから充分の注意を以て熟讀せられんことを希望します。

元來、遺傳には各種のものがあります。即、肉體的の性質としては體質、容姿、毛髮及皮膚の色、疾病、或は疾病に罹り易き素因、畸形等を遺傳します。又、精神的の性質としては優良なる性質も劣悪下等なる性質も遺傳します。但、両親の有せる肉體的及精神的性質が全部遺傳するとは限りません。其中の或るものが遺傳物質によりて傳へらるゝに過ぎません。今其主要なるものを左に説明します。

(一) 結核の遺傳

結核は有名なる獨逸の大醫コッホ Koch の發見せる結核菌に原因すること何人も知れる處であります。且又、其害毒の猛烈にして慘憺たるは今更ら贅言を要しません。然して結核は結婚及遺傳と云ふ點に於て最も重要な問題に屬するものであります。

現今の學說によれば結核菌そのものは斷じて子孫に遺傳しません。即、結核菌が生殖細胞に伴はれて女性の卵子に入り込み、茲に胎兒と共に發育するものは信せられません。又、卵子そのもの、中にも未だ結核菌を證明し得た報告もありません。故に眞の意味に於ける遺傳なるものは

首肯し得られないのであります。故に両親の何れかに結核病ありと假定するも、生れたる子供が結核菌を享有する如きことはありません。従つて後來、子供そのものから原發的に結核病を惹起するの恐れは無いのであります。

然し乍ら茲に注意すべきことは、斯かる結核患者を親として生れたる子供は多く、結核性素質なるものを遺傳せられるのであります。換言せば將來、結核菌に侵され易いと云ふ性質を遺傳せられるのであります。元來、結核菌なるものが世上に散布せられ居る率は實に驚くべき程で特に都會の地には到る處、結核菌の繁殖散亂せるを證明し得ます。従つて吾人が結核菌を吸入すること頗る多く、殆んど何人とも雖も之を免れ得ないのであります。然るにも拘らず之を吸入せる總ての人々が必ずしも結

核に侵さるゝことなく、能く健康を保ち得るは何故でありましょうか、之れ各自の體內には結核菌の侵襲に抵抗して之を滅殺し得る如き自然の抵抗力を有するが故であります。然るに結核性素質を遺傳せられたる人々は、他人が能く結核菌に打勝ち得る場合にも容易に之が爲めに侵襲せられて遂に悲惨なる末路に陥るを免れないことが多いのであります。

一般に結核性素質を帶ぶる人々は一種特有の體質を備へて居ります。即ち多くは腺病質で、體格纖弱であり、皮膚は細かく色澤よろしく、恰も「ルビー」を薄衣もて包みたらんが如く、髪はあだかも烏羽玉にも比すべく、眼いと涼やかに一種の光澤を帯び、如何にも伶俐そのものゝ表徴であります。首は細長く、肩はしなやかに、多くはなで肩であります。胸廓は狭く、腰部小さく、手足は一般に細長いのが多いのであります。

す。それ故、女子ならば傾國の美人、男子ならば、その昔の光源氏も斯くやありしと偲ばるゝ美男子が多く、よしや、それには及ばずとも水平線を出づる者が多いのは事實であります。斯かる男女は美の神に恵まるゝこと深きも美人薄命の諺に漏れず、多くは短命にして悲惨なる最後に終ることは誠に是非もなき次第と云はねばなりません。

以上述ぶる如く、結核菌そのものは子孫に遺傳せずとするも將來、結核菌に侵され易き素因、即、結核性素質を遺傳するものとせば、實際の社會問題として吾人は如何なる處置を取るのが最も適當でありましょうか。

先づ第一に結婚問題に溯つて考へなければなりません。即、結核性疾患の両親より生れたる子女との結婚は成るべく、避くる方、萬全の策

であると信じます。之は遺傳學上より論じたる正當の議論であります。

然し乍ら實際上に於ては種々の複雑なる周圍の事情がからまつて、唯單に學問上の意見のみで解決し難い場合も少なからぬことと思ひます。又、實際、両親の何れかに結核ありとするも結核の發現したる時期の如何も考へねばなりません。例へば子女の生長後に罹病せる者もありませう。又、子女其人の體格が両親に肖ないで祖父母の遺傳素質を受け継ぎし爲め、頗る頑健なる體格の所有者もありませう。或は又、幼時よりの體育訓練のよろしきによつて體質の美事に一變せる者もありませう。それ故、能く之れ等の點を顧慮し、最も正當なる判斷を下して決定すべきは學理と實際とを調和せる最も賢き方法であると思ひます。

又、若し不幸にして自己の家庭に結核性素質の遺傳ありと思はるゝ人

々は如何にせば宜しいでありませうか。斯かる人々は萬難を排して一日も早く之が絶滅に勉めねばなりません。之れ自己の爲めにも、子孫の幸福の爲めにも、はた又、廣く社會の一員としても當然の責任であります。然らば之が最善の方法は何でありませうか。私は至極平凡の様ではあるが左の方法を御参考までに述べて見たい。由來、千古の眞理は多く平凡の中に含まるゝものであります。

(一) 冷水摩擦を勵行すること 冷水摩擦は皮膚の抵抗を強くし、感冒を豫防し、内臓、血管系統、神経系統等を強健ならしめ、全身の健康を増進せしむるに最大の効果があります。冷水摩擦には種々の方法あるも私が年多實行し、且又、多くの人々にも勸めて行はしめ、よく好結果を収め得た方法を記述して見たいと思ひます。即、西洋手拭を冷水に浸し、

堅く絞りたる後、先づ左の腕を強く摩擦します。この際、手の方向にこすり下げる力よりも寧ろ肩の方向にこすり上げる方を強くします。之によりて静脈血及淋巴の循環を可良ならしめ得ます。動脈血は反對の方向にこすらるゝことゝなりますが動脈血は常に心臓の搏動により、猛烈なる勢ひで末梢の方向に驅逐されて居りますから少しも障碍は與へません。左腕の摩擦が終つたならば次は右腕に及んで同様に強く摩擦します。次で更に胸腹部に及ぼします。胸部の時は特によく胸を張り胸壁の全面に沿ふて摩擦し、皮膚が潮紅を呈するに至らねばなりません。腹部の時は胃部は左より右に、大腸部は右より左に、其回轉に沿ふて摩擦します。之により胃腸の血液循環を可良ならしめ、栄養物質の吸収を促がし、便通を整へる等其効果の偉大なることは驚くべき程であります。

如何に服薬するも、治癒せざりし頑固なる胃腸症状が本法の實行によりて多年の病患を一掃せしめ得たる實例も頗る澤山にあります。胸腹部の摩擦が終れば直ちに項部を強く摩擦します。特に神経衰弱、頭重、眩暈等の傾向ある人々には最も奏效します。次で背部、下肢に及ぼしますが下肢も上肢と同じく寧ろこすり上げる方を強くする様に勉めなければなりません。

冷水摩擦を行ふべき時間は早朝、床を蹴つて起き出でたる時が最もよろしい。之に次では就寝前が宜しい。或は朝と夜と二回行へば更に理想的であります。

冷水浴は身體の虛弱なる人、老人、小兒、等には適しません。之は餘りに刺戟が強くて諸種の疾病例へば腦溢血、腦貧血、肋膜炎等の原因と

なり得ることが多いからであります。故に必ず冷水摩擦を行はれんことを希望します。

(二) 深呼吸を行ふこと 毎朝深呼吸を行へば、肺臓に於ける瓦斯交換を高め、肺組織の血行を促がし、呼吸器の健康を高めて、誠に意外の良果を奏するものであります。私の如き既に大學時代より今日に至るまで實行し幸にして呼吸器は頗る頑健であります。深呼吸を行ふ方法は極めて多きも私の多年實行せるものは最も簡易であり而も效果頗る著しきを信ずるが故其大要を記述することに致します。

先づ早朝、前記の如き冷水摩擦を終りたらば直ちに庭園に降り立ち朝日の方向に向つて直立します。此際、兩手を下垂し、眼を閉ぢ、暫らくは無念無想の境に入ります。之によりて精神の統一を計り、邪念を一掃

することが出来ます。次で両手を前方に平行して舉上し、更に頭部に及ぼし、後方に大圓形を畫いて再び下垂の状態に復します。此際手を舉上し終るまでは出來得る限り深く空氣を吸入します。勿論、口を閉ぢ鼻孔より吸入せねばなりません。次で大圓形を後方に畫いて両手を下垂する時には最大の呼吸を營みて出來得る限り肺から空氣を吹き出します。

以上の如き深呼吸運動を約十回繰り返します。初め一二回は少し眩暈を感じることがありますが少し慣れると何共ありません。却て之により心氣頓に爽快となり、心身共に一種云ふべからざる健康快感を覺ゆるに至るは實行者の悉く體驗する處であります。

但、以上の方法は或種の疾病に罹れる人々には適當しないことがあります。例へば重症の結核、肋膜炎等の如きであります。それ故各自よく

自己の身體を顧みて適宜實行せられんことを希望します。

(三) 日光浴を行ふこと 日光は實に萬物化育の根元であつて其効果の

著しきは誠に驚くべき程であります。就中、血液の赤血球を増加せしめ、血行を佳良ならしめ、呼吸を深長ならしめ、神経系統を亢奮せしめ、爽快活潑ならしむるの作用があります。是等は主として日光の紫外光線の作用によるのであります。

然らば日光浴は如何にして行ふべきかと云ふに、之れには各種の方法があります。歐米の有名なる結核療養所に於ては實に壯大にして完備せる装置を施して居りますが、要する所は日光を利用するにありませうから、其主旨のもとに行へば宜しいのであります。即、南に面して開けた室又は縁側等に籐椅子などを置き、之に横臥し、頭部を少しく高くし日覆ひ

にて頭部を保護して直射日光を避け身體の他部は出來得る限り日光に曝露せしむるのであります。勿論冬期などは寒風を防ぐ爲め縁側に硝子張りの戸を設くる必要があります。私は西洋で、屋上、庭園等に硝子張りの小さな家を造り、且、家全體が自由に廻轉することの出来る様の設備が設けてあつて、日光の射入する方向に家の向きを變へ得る様になつて居るのを實見しました。之は一日中、出來得る限り長時間、日光浴を行はしめんが爲めであります。

(四) 食物に注意すること 結核性素質を有せる人は特に食物に注意し、適當なる物質を攝取することが肝要であります。特に「カルシウム」鐵分、「ヴァイタミン」に豊富なる食物が宜しい。故に同じ魚類を食するにしても高價なる鯛の刺身などを食するよりも、安價なる小肴の丸煮

きを骨のまゝ食して、骨に含有せらるゝ「カルシウム」成分を多量に攝取する方がむしろ宜しい。又、同じ野菜でも青菜ならば葉綠素中に多量の鐵分を含む故に他の野菜よりも有効であります。又「ヴァイタミン」にはA、B、Cの三種があつて其何れが缺乏するも共に身體に有害であります。之も食物によつては多量に含有せるものと全く缺乏せるものとさへあります。例へば、野菜では「キャベジ」「ホウレンソウ」「トマト」「ニンジン」等は多量の「ヴァイタミン」を含有して居ります。果物では「レモン」「オレンジ」等、又、穀物では玄米、大麥、小麥等、其他、煮沸せざる牛乳、鶏卵、(特に生まの卵黄)等に多量に含有して居ります。反之、白米、魚の刺身、肉エツキス、罐詰の肉類野菜、「コンデンスミルク」等には「ヴァイタミン」の含有量は極めて少量で甚だしきは全く

缺乏せるものさへあります。

故に日常生活に於て是等の諸點をよく顧み、如何にして有効であり而も經濟的なる食品を選むべきかを考へねばなりません。

凡、以上の四大條件は結核性素質を驅逐し體質を一變せしむるに極めて肝要なる事項でありまして、日夜之を遵守し、且、長日月に亘りて實行せねばなりません。但、同時に他の必要なる一般健康増進法をも併せ行ふべきは勿論であります。

以上述ぶる如き適切なる心得を多年實行せらるゝならば、よしや不幸にして両親又は祖先より結核性素因を享け繼がれ居るも、能く結核の發現を豫防し得らるゝのみでなく、之の憎むべき、いとうべき素因を絶滅して、愛兒への遺傳をも防ぐことが出来るのでありまして、之良き子實

を得るに絶対に必要なる心得であります。

(二) 癩病の遺傳

癩病、即、「レプラ」 Lepia は古來遺傳病と信せられ、而も最も殘酷なる天帝の罰として或家系に對し特に下されたる業病であることせられたのであります。本病を一名、天刑病とも稱するは斯かる思想より出でたる名稱と想像せられます。然らば癩病は果して子孫に遺傳するものでありましょうか。

癩病は癩病桿菌 Leprazillen と稱する一種の細菌の寄生に原因するものであります。然し乍ら之の癩病桿菌が男子の精蟲と共に卵子に侵入し、或は卵子それ自身に癩菌が存在し、胎兒の時代に既に癩病を遺傳せられ

ると云ふ事實は未だ確實に證明されて居りません。換言せば眞の意味に於ける癩病の遺傳は學術的に立證されて居らないのであります。故に現今の學術上より云へば癩病は遺傳病に非ずと論じ得ます。否、癩病は實に癩病桿菌の寄生繁殖に因る一種の慢性傳染病に過ぎないのであります。即、癩患者の鼻汁、患部の膿汁等に含まる、癩菌が種々の機會に於て健康者の鼻孔、皮膚の切創等より侵入し、長年月の間に繁殖して遂に猛威を逞しくするに至るのであります。癩菌が體内に侵入してから發病するに至る迄の潜伏期の長きこと眞に驚くべき程で短かくとも數年、長きは十數年を要するのであつて、従つて傳染せし時期を確實に知ることが到底不可能なることが多いのであります。

借、癩病は前述の如く遺傳病に非ずして一種の慢性傳染病に過ぎない

とせば、結婚其他、實地の問題に際し、單に傳染病であるとして之を輕視して差支へなきものでありましようか。之は學理と實地との最も重大なる交叉點であると言はねばなりません。特に優良なる子實を如何にして得べきかの問題に關聯して最も大なる注意を必要と致します。

最近の調査によれば日本内地のみにて癩病患者として當局者の統計に上れるもの約四萬人を算し、之の他、尙秘密裏に治療しつゝあるもの頗る多かるべく、斯く多數の患者が病菌を散布しつゝある率は實に驚くべきものであります。従つて吾人が之に侵襲せらるゝの機會も頗る多きは想像に難くありません。然るに實際に於ては必ずしも總ての人が癩病患者となることなく、否、最大多數の人々は能く之を免れ、只一部少數の不幸なる者のみ之に冒さるゝは何故でありましようか。又、世人の所

謂「癩病すぢ」と稱する家系の子孫に限り、特に癩病患者の發生すること多き事實は何を物語り、何を意味するものでありましようか。是れ實に癩病そのものは遺傳せなくとも癩菌に侵され易いと云ふ一種の素質を遺傳されて居るが爲めであります。即、癩病患者の子孫は他の健康者に比して容易に癩菌の侵襲繁殖を蒙り易き遺傳を親より受け繼ぐが故、同一家系に、屢々患者が發生するのであります。但、嘗て癩患者の發生せし家には癩菌の散布せられ居ることも、他の家に比して遙かに多く、又、兩親より傳染せらるゝ機會が非常に多きも亦、確かに重大なる原因を爲せるものであります。

以上述ぶる如く癩病は一種の慢性傳染病に過ぎないものであるが、而も尙、癩菌に侵され易いと云ふ一種の素質を子孫に遺傳するものと信せ

○○○○が故、是等の點より考ふれば、優良なる子孫を得たいと熱望せらるゝ方は、斷然所謂「癩病すぢ」と云はるゝ家庭との縁組みは避けた方が萬全の策であると信じます。

次に又、世には不幸にして斯かる悲惨なる家系に生れ來り、其暗き運命に人知れず萬斛の涙を灑げる人々も少なからぬこと、思ひます。私は是等可憐の人々に對し密かに告げたい。諸氏の病、既に發し、明かに癩病なることが確定せば宜しく避妊法を講じて子孫を絶滅すべきであります。それと共に現代醫學の極を修得せる専門大家の治療を乞ひ、或は大楓子油の新製劑を服用し、草津温泉に入浴する等、總ての手段を盡されんことを切望致します。又、癩病の家系に生れて而も未だ癩が現はれざる者は、宜しく祖先の家を去りて新居を營むことをお勧めします。何と

なればかゝる家は癩菌の散布率多く、且、鼠族の間にも癩菌の擴がれる危険があるからであります。但、鼠が果して癩病に罹るや否やに就ては確實なる學説はありませんが、少なくとも癩菌を他に散布するの危険は充分之を有して居ります。

(三) 精神病の遺傳

精神病には多數の種類があつて一様に之を論ずることは困難であります。然し乍ら其多くが子孫に遺傳することは事實であります。但、精神病そのものが直接に遺傳することは無く、將來、何等かの誘因ありし場合、精神病に罹り易いと云ふ一種の素質を遺傳します。例へば或る非常なる精神的打撃に會したりとせんに、健全なる人ならば、能く之に堪へて難關を突破し得る場合にも精神病の素質を享有せる人は容易に打撃を蒙りて精神病を惹起する如き之であります。

精神病が或家系に特に多くて親、叔父、叔母、兄弟等に二人三人と現

はるゝ如きは吾人の日常見聞する處であります。之れ即ち精神病の素質が遺傳することの何よりの證明であります。

それ故、優良なる子寶を得んが爲めには先づ結婚の最初にさかのぼりて、斯かる家系との縁組は可成避けた方が宜しい。之れ誠に萬全の策であると思ひます。

若し不幸にして精神病の家系に生れて其素質を享有せる人々は、宜しく未だ病の發せざるに先ち豫め適當なる注意を怠つてはなりません。即ち斯かる人々は職業の選擇に當りては可成頭腦を勞せざる如きもの、例へば農業、果樹園藝、牧畜、山林業等の如き自然に接觸し頭腦を勞せざる職業が宜しい。反之、學者、軍人、官吏、商業、等の如き精神を勞する職業は不適當であります。又、一方には宗教による安心立命を計り、或

は繁忙なる都會の生活を去りて閑靜なる田園に起臥する如きも良策であります。

精神病は上述の如く子孫に對して精神病を發生し易き素質を遺傳するもので、其遺傳の率は男女間に大差がありません。換言せば父親も母親も同等に遺傳せしむる力があり且又、男の子にも女の子にも同様に、かゝる素質が傳はります。それ故兩親の何れに精神病ありとするも同じ比で子供に素質を遺傳します。それ故、深く子孫の幸福を慮るならば避妊法を講じて遺傳素質を絶滅すべきであります。但、之は非常に熟慮を要すべき問題でありまして精神病の種類、罹病の時期、其輕重、豫後、遺傳性、家庭の事情、其他各方面の状態を參考し、且又、信頼すべき精神病専門大家の意見をも斟酌して決定するが良いと信じます。

(四) 精神薄弱の遺傳

精神薄弱とは判り易く云へば強度の神經質であります。即、僅かの刺戟によりても忽ち己れを忘れて憤怒し、或は極端に悲觀し、或は「ヒステリー」となり、或は憂鬱症となる如き者を云ひます。故に精神薄弱は、健全なる精神と、病的の精神、即精神病との中間の状態であるのでありまして、一步、其症状が進めば本物の精神病に罹ることが多いのであります。

精神薄弱の多くは遺傳的傾向を帯びて居ります。即、該患者の親又は叔父叔母、祖父母等を探りますと多くの場合、同一患者を發見し得ます。

或は明かに親のアルコール中毒の爲めに起れることを證明し得ることも
あります。

それ故、結婚に際しては、其家系に精神薄弱の系統の有無を嚴重に調
査し、若し、あれば、成るべく避けた方が宜しい。

若し又、不幸にして結婚後夫妻の何れかに、かゝる遺傳的素因あるを
發見し、或は、かゝる疾病が發現したならば務めて體質の改善を計り子
孫への遺傳素因を絶滅せねばなりません。其方法としては服薬よりも寧
ろ、冷水摩擦、深呼吸、日光浴、榮養療法、等を勧めたいと思ひます。
其他、宗教による精神的慰安の如きも大に効果があります。以上の方法
を合理的に且、長時日に亘りて繼續するならば體質の一變に驚くべき效
果あることを斷言します。従つて子孫への遺傳的素因をも或程度まで絶

滅し得るものと信じます。

精神薄弱の夫婦が子孫の爲めを思ひて避妊法を講すべきや否やは重大
なる問題であります。前述の如く、合理的なる療法によりて之を治癒せ
しめ得るのみならず子孫への遺傳的素因も或程度まで絶滅し得るのであ
るから強て避妊法を實行するの必要は無いと私は確信します。

元來、精神薄弱は生命には何等の危険なきのみならず、異常なる天才
は多くかゝる資質の中から彗星の如くに出現するものであります。特に
偉大なる熱血詩人、文豪、畫家、彫刻家の如きは之の型に屬する人士が
多いのであります。故に若し藝術至上主義より極端に論するならば、所
謂精神薄弱型の保存は寧ろ必要であるかも知れません。

(五) 梅毒の遺傳

梅毒の病原體は「スピロヘータ・パリダ」Spirochaeta pallida と稱する一種の螺旋狀菌であります。之が傳染徑路は主として有毒娼婦との關係にあること今更ら申すまでもありません。然し其他に尙、接吻の爲め、唇より傳染することもあれば、又、指頭の傷口などから侵入することがあります。特に醫師、産婆、看護婦等梅毒患者に接するの機會多き者は指頭の僅かの傷口より感染することは少なくありません。

梅毒が遺傳するや否やは學術上大なる論點となつて居ります。即ち梅毒病原體が男子の精蟲に侵入し、之と共に卵子に入り込むや否や、或

は女性の卵子中に病原體が侵入し居り受胎の初めから既に胎兒に遺傳するや否やは現今尙不明であります。故に、眞の嚴密なる意味に於ける遺傳と云ふことは頗る疑問とされて居ります。

然し乍ら胎内傳染の起り得ることは確實であります。即ち子宮内に存する胎兒に對しては梅毒病原體は確かに侵入して梅毒を感染せしめ得ます。即ち、妊婦が若し梅毒に罹患し居れば梅毒病原體は血流に伴はれ胎盤を通過して胎兒に侵入し茲に發育繁殖して、著明なる害毒を逞しくします。かゝる胎兒を特に遺傳梅毒兒と稱します。遺傳梅毒兒の重症なるものは多く子宮内に於て死亡し妊婦は流産を起します。輕症のものは生きて生れ出で特有の症狀が益々烈しく現はれます。之は適當なる治療によりて輕快又は治癒せしめ得ますが、何等かの缺陷症狀を残すを普通

とします。

借、梅毒の病原及遺傳状態が前述の如くであるとせば、吾人の目的たる「良き子實」を得る爲めには如何にせば良いでしょうか。

先づ、結婚問題にさかのぼりて考ふれば相手の男子又は女子の、梅毒の有無を探らねばなりません。然し、之は他人の絶対秘密に属することでありますから、容易に知ることが出来ません。又、醫師も患者の秘密を厳守すべき法律上の義務がありますから醫師に就て之を探ることも出来ません。それ故、本人の健康状態及、品行に就ての充分なる調査に基きて推定するより他に方法がありません。近時、一部先覺者の主張する如き健康證明書の交換が最も宜しいと思ひます。即、結婚に先ち、男女双方に一般の健康状態特に花柳病の有無を記入せる書類を交換するに

あります。但、之は個人の権利秘密に属することでありますから實現は仲々困難なることであると信じます。

若し不幸にして梅毒に感染せる夫婦は速かに徹底的の治療を受け、病原體を絶滅せねばなりません。然らざれば、愛する胎兒に梅毒を傳染せしめて悲惨なる結果を來すこと火を賭るよりも明であります。

然らば如何にせばよろしきやと言ふに、現今にては幸にして靈藥「サルバルサン」が発見せられし爲め、根本的に治療すること左程困難ではありません。それ故、一度梅毒に罹りたりとて、敢て悲觀することなく、優良なる愛兒を設くるに何等差支へありません。従つて、従前専ら唱へられたる如く、避妊法を講じて子孫を絶滅することは全く不要であります。

但、「サルバルサン」の效力も絶対的に確實と云ふことは出来ません。即、必ずしも梅毒を根治せしむること困難で、時に再發の恐れがあります。それ故、信用すべき専門家に就て徹底的の治療を受け且、其後と雖も毎年一回位は血液検査を依頼し、絶えず再發を警戒することが肝要であります。

(六) 癌の遺傳

癌は癌細胞と稱する一種の病的細胞の増殖に因りて起る疾病であります。癌は身體の如何なる部分にも起りますが、特に胃、肝臓、直腸、子宮、乳房等が冒さるゝことが多いので、所謂、胃癌、肝臓癌、直腸癌、子宮癌、乳癌等と稱するは普く人の知る處であります。而して癌の人類に及ぼす惨害たるや頗る猛烈で、現今の進歩せる醫學を以てするも尙不治に終ることが多いのであります。

然らば癌と云ふ不可思議なる疾病は何故に起るかと申しますと、其眞の原因は今日尙不明であります。之に遺傳説と後天説とがあります。即、

遺傳説とは、親又は祖先より癌が子孫に遺傳さるゝから一定の年齢（通常四十歳以上）に達すると發病するのであると論ずるのであります。例へば兩親、祖父母、叔父叔母、等が癌で仆れた家系には癌の患者が多いことは古來の統計上明かに證明せられて居ります。外國に於ては某々皇室が之の點に於て著名であります。又、本邦に於ても或る有名なる富豪に之の病のあることも人の知る處であります。後天説とは遺傳によらずして單に自分自身が癌を病み出すのであるとの説であります。之を證明する爲めに試に試験動物に對して、數年に亘りて「テール」を繰返して塗り、一種の刺戟を與ふれば癌を生ずることがあります。（山極市川兩博士實驗）

かく、癌の原因に就ては學説が未だ一定しませんから癌が遺傳病であ

るとは今日尙斷言することが出来ません。然し乍ら、種々の點より考へて癌そのものは遺傳しないが、將來癌を生じ易いと云ふ一種の素質を子孫に遺傳することは一般に認めらるゝ處であります。

それ故に優良なる子孫を得んと希望から云へば癌の家系との結婚は出來得る限り避けなければなりません。

若し又、不幸にして斯かる遺傳的素質を親又は祖先より受け継ぎしと思はるゝ人士あらば、適當なる豫防法を講せらるゝ様お勧め致したい。即ち最も多く胃癌を誘發し易き原因、例へば酒、煙草等を禁ずることが肝要であります。特に燒酎、泡盛、「ブランデー」、「ウキスキー」等の如き、「アルコール」の強烈なるものは大害があります。日本酒、「ポトワイン」、「ビール」等の少量ならば大した害はありません。煙草も少量な

らば有害でありませんが一日數十本にも上る様では有毒であります。特に葉巻煙草は大害があります。「アルコール」や「ニコチン」は胃の粘膜を強く刺戟し而も其刺戟が相次で緩慢に來る爲め、胃癌を誘發する最大の原因となり得るのであります。

又、胃潰瘍と云ふ胃病は往々胃癌を誘發する原因となることがあります。之は胃壁の一部に病變が起つて恰も壁の上塗が剝がれたる如く、胃壁の内側が剝けて、大小各種の穴を生ずるのであります。處が其穴の周圍の部分から胃癌を發生することが往々あるので、之が最も恐るべき點であります。それ故、胃潰瘍に冒されたならば直ちに充分なる治療を受けて全治せしめて置かなければなりません。

其他の癌腫例へば乳癌、子宮癌、肝臓癌等は何共豫防の方法がありません。

せん。直腸癌の如きも便秘を注意する位より之と云ふ適法がありません。

若し既に癌を發せる患者は一日も早く専門大家の懇切周到なる治療を乞ふべく早期に之を發見して根本的の手術を施せば治癒せしめ得ることが少なくありません。

癌腫の患者或は其家系の人々が子孫の幸福を思ふて避妊法を施すべきや否やは大問題であります。前述の如く癌の原因そのものが既に遺傳的のものなるか或は後天的のものなるか不明なる以上、早計にも避妊法を實施して子孫を絶滅せしむるの必要はないと信じます。又、近き將來に於て癌の特效薬の發見されぬとも限らぬ故、宜しく運を天に任して暫らく自然の成行に従ふことが賢者の採るべき良策であると確信します。

(七) アルコール中毒の遺傳

「酒飲みに碌な子供は出来ない」とか「あの馬鹿は酔中の駄作だ」とか云ふ言葉は吾人の屢々耳にする處であります。然らば酒は何故、生るゝ子供のためには有害なのでありませうか。

酒は申すまでも無く多量の「アルコール」を含有して居ります。之の「アルコール」は多く其まゝ胃腸の壁から吸収せられて血中に入り全身を循環します。それ故、多く飲めば飲む程、体内に於ける「アルコール」の量は多く蓄積せられます。然して之を腎臓から排泄し盡すに多大の時間を要します。之の間に「アルコール」は全身の器官を侵害しますが特

に深刻なる障碍を蒙るものは神経系統でありまして、酒呑みが「酔つた〜」と管をまいて居る時は大脳の神経中樞が冒されて居るからであります。又、面白そな千鳥足でふらついて居るのは小脳や脊髄の神経中樞が冒されるからであります。神経系統が斯くの如く「アルコール」によりて障碍さるゝと同時に生殖腺も亦冒されます。即、男子ならば睪丸を、女子ならば卵巣を「アルコール」の爲めに害せられます。従つて、睪丸の精蟲も、卵巣内の卵子も共に多大の害毒を受くべきは理の當然であります。

斯くの如く「アルコール」によりて侵襲せられたる精蟲或は卵子が相會合して妊娠せしと假定せば其結果は推して知るべきであります。多くの白痴、低能、精神薄弱、精神病、聾啞等の構むべき兒童は實に之の

瞬間に於て、悲むべき生涯の運命を與へられたのであります。世の中に斯くまで残酷なることが又どありましようか。

以上は「アルコール」の急性中毒でも云ふべき場合の結果でありませんが、慢性の時も之と同じ状態を生じます。即ち、日常酒に親しみ身體の各器官が侵されて所謂慢性アルコール中毒に陥れる両親より生れし子供は多く前述の如き諸々の缺陷を脊負されて此世に生れ出ます。誠に怖るべき因果關係ではありませんか。

されば結婚の相手を選むに當りては必ず両親の大酒家であるや否やを調べねばなりません。又、大酒家の子は多く酒に對する抵抗力強く、嗜好性も多いのでありますから、本人其者にも飲酒の癖が有るや否やを調査するの必要があります。

又、既に結婚生活を営みし後には夫婦共に飲酒を出來得る限り制限し、共に恐るべきアルコール中毒に陥らぬ様戒心することが肝要であります。特に注意すべきは酔中の房事であります。之は平素大酒家である否に關せず最も謹むべきことで、前に述べたる如き理由により悲むべき結果を愛兒の上に及ぼすものであります。世には人も羨む多くの俊才逸足の愛兒を持ち乍ら、會々一二の低能、白痴の子供が其中にあるのを不可思議に思つて居ることがあります。之は恐らく平生たしなまぬ「アルコール」の急性中毒時に作りし子供でありませう。所謂、「酔餘の駄作」に屬するものと思はれます。

以上は受胎前の注意であります。受胎後と雖も婦人は決して「アルコール」の急性又は慢性中毒に陥つてはなりません。何となれば胎兒と母

體とは子宮壁に存する胎盤によりて密に連結せられ、母親の血液は胎盤を介して胎兒に移行し之を榮養して居ります。それ故母親の飲みし「アルコール」成分は必ずや胎兒にも及び之に大害を與へます。母親が「酔つた酔つた」と管を巻いて居る時は、抵抗力弱き無心の胎兒は更に一層強く「アルコール」に侵害せられて居る時であります。殊にその繊弱なる脳髓や脊髓が如何に憎むべき「アルコール」によりて侵されて居るか、其可憐なる小さき心臓が如何に驚きの調子を以て搏動して居るかを想像して御覽なさい。

それ故、優良なる子實を得んと熱望する夫婦は斷じて「アルコール」の誘惑に負けてはなりません。

(八) 腦溢血の遺傳

腦溢血とは俗に云ふ卒中或は中風のことであります。即、腦を榮養せる血管の内、比較的細小なる血管が何等かの原因により破裂し、出血を來す爲め、腦の中樞が冒され、軽度なる時は治癒又は輕快するけれども重症なれば數時間或は數日後に死亡する如き病症であります。

腦溢血そのものは決して、そのまゝ直接に子供に遺傳しません。即、子供が生後間もなく腦溢血で仆れたと云ふ様なことは決してありません。然し乍ら將來、或時期に於て腦溢血に罹り易いと云ふ素因が遺傳せらるゝことは事實であります。換言せば比較的容易に破裂し易き血管系

統を享け継ぐのであります。例へば茲に二種のゴム管があると假定します。甲は優良なるゴム園より採取せし良質の原料にて製せしものとせば多年之を使用するも仲々破裂しません。反之、乙は不良なるゴム園より送られた粗悪なるゴムにて製せられしものとせば少しく水圧が高まる時は容易に破裂するであります。人間の場合も之と同様であります。随分の高齢に達せるも尙、頑として衰へない人もあれば、壯年にして早くも脳溢血にて仆るゝ人もあります。勿論、脳溢血の原因が總ての場合に遺傳に基づくとは申されませんが、何れかと云へば多少の遺傳的傾向あるを認め得る場合が多いのであります。甚だしきは祖父、父親、或は叔父等の總てが代々脳溢血にて仆れたる如き家系を発見することさへあります。

それ故、優良なる子寶を得んどの目的ならば結婚前、豫め充分の注意を以て、對手の家系を調査し、脳溢血の遺傳的傾向あるや否やを検すること肝要であります。

若し又、自己に脳溢血の遺傳的素因があり或は結婚後夫婦の何れかに、斯かる素因あるを発見せば宜しく之に對し適當なる良法を講じて疾病の發現を未然に防ぎ且又、更に進んでは之の憎むべき遺傳的素因を絶滅して子孫に傳へぬ様、力を盡さねばなりません。然らば如何にして之の目的を達することが出来るでありませんか。

元來、吾人の身體にある血管の壁は著しく弾力性を有して居りまして、容易に破裂するものでありません。然し老年に達すると漸次弾力性が減少し、血管の内膜は脂肪變性と稱する一種の變化を呈し、且、石灰

質の沈着を來します。之が爲め血管壁は著しく脆く破れ易くなり、僅かの動機によりても容易に破裂して腦溢血を惹起するのであります。例へば老人が熱い湯に入り、或は蒸風呂に入り、或は冷水浴をなして居る時に忽ち卒中になるなどは何人も日常見聞せる處であります。之は温熱或は寒冷等の刺激によりて血圧が一時に上昇したが爲めであります。

かくの如き血管の變化を血管硬化と申します。而して血管硬化は主として動脈に現はれますから一名、動脈硬變症とも稱します。之の症狀は生理的には非常なる高齢者にも軽度に取りますが病的には比較的若い人にも起ることがあります。特に遺傳的に素因を傳ふる傾向があります。其他、大酒による「アルコール」の害毒、多量の喫煙による「ニコチン」の害、梅毒の毒素に因する障礙等によりて惹起せらるゝことが多

くあります。其他、鉛毒によることもあります。近來、衛生思想の進歩につれて一般の婦人も無鉛白粉を選択することになつたので鉛毒は大分減じましたが、尙一部の俳優藝人の間には愛用せらるゝの傾向があります。私の知つて居た大阪の或る有名な女形は鉛毒に原因せる動脈硬變症より腦溢血となり舞臺の上で仆れたのであります。

以上の如く、腦溢血の原因は多く動脈硬變症であり、之の病症の原因をなすものは主として酒、煙草、梅毒、鉛毒等でありますから、苟も腦溢血の素因を享け継げる家系の人々は是等の點を深く顧み務めて其誘因を避け、本病を豫防せねばなりません。又、斯くて本病の發現を完全に防ぎ得ば更に子孫に向つて腦溢血の遺傳的素因を傳ふることを幾分にも減少せしめ得ます。之れ、優秀なる子實を得る何よりの手段では

ありませんか。

(九) 癲癇の遺傳

癲癇とは發作的に時々、人事不省に陥り暫らくして恢復する如き疾病であります。其原因は後天性に各種の原因例へば頭部の負傷等によりて罹ることもあります。私の知つて居る患者に幼年時、心なき母親が子供の亂暴に腹を立て、頭の頂邊に大きなお灸をする、之が爲めに後に癲癇の患者となつた例があります。斯くの如く、其原因が明かに證明し得るゝ場合もありますが、先天性即ち生れながらに癲癇を遺傳されて居る不幸なる子供もあります。但、癲癇そのものは遺傳せらるゝのではなく、生長後、何時か癲癇が發現し易き如き素因を遺傳せらるゝのであり

ます。

それ故、結婚に當りては相手の家系に癲癇の遺傳的傾向が有るか否かを充分の注意を以て調査するの必要があります。

若し又、不幸にして結婚後、男女の何れかに癲癇の遺傳的素因あるを發見せば早く之を絶滅し子孫への遺傳を防がねばなりません。然し乍ら、悲しむべき哉、現代の醫學は癲癇に對する根本的治療法を有しません。只、藥劑の力によりて其發作を輕減せしむるに止まります。故に務めて精神を勞することの少き職業を選び、身神の休養を計り、少しなりとも疾病の程度を輕からしむることが肝要であります。

(一〇) 聾啞の遺傳

聾啞とは俗に云ふ「つんば」及「おし」であります。聾啞は後天性即生後に種々の疾病の爲めにも生じますが多くは先天性即生れながら之の暗き運命を有して居るのであります。生れた時は玉の如き愛兒で蝶よ花よと育て、居る中に、他の同じ年頃の生れ兒が片言まじりにて發言するに係らず自が愛兒に限りて、何となく異様に感ぜらるゝのが疑ひの初めであります。驚いて言語、聽力等の検査をなすに悲しい哉生れ乍らの聾啞であることを發見するに至ることが多くあります。

然らば先天性の聾啞は何故に生ずるやと云ふに多くは兩親の血族結

婚、梅毒、アルコール中毒等に原因して居ります。

血族結婚による聾啞は頗る多いのでありまして、此れに關しては別に詳しく述ぶることに致します。又、梅毒、アルコール中毒等の慘害に就ても、その部に於て詳しく述べましよう。

而して、斯かる先天性聾啞なるものは甚だ屢々、子孫に遺傳するものでありまして、時に一家數人の子供が悉く聾啞であつたり或は之の聾啞の子供が再び同じ病氣であると云ふ如き悲惨極まる實例もあります。

それ故、結婚問題の如きに當りてはよく、先方の家系を調査し、斯かる先天性聾啞の有無を徹底的に調査するの必要があります。但、後天性に耳の聾したる者、例へば中耳炎の結果聽力を失ひたる如き場合には其人を親とする子供と雖も何等の不都合はありません。之は恰も眼病の

爲めに眼を摘出せられたり、負傷の爲め手又は足を切斷せられた人々の子供に、決して眼の無き子供や手足の無き者が生れないと同じであります。即、かゝる場合には身體の一部の組織が缺損せる丈けであつて、生殖細胞即精蟲又は卵子には何等の障礙を及ぼさないからであります。

(一一) 色盲の遺傳

色盲とは或種の色に限りて正當なる色として正しく認識し得ない色覺の缺陷者であります。其中最も多いのは赤緑盲と稱するもので赤及緑を正しく赤又は緑として認識し得ないで單に無色に見ゆるものであります。之は男子に比較的多く平均三、五乃至四、%あります。女子には割合に少なく、〇、%四に過ぎません。即男子は千人中三十五人乃至四十人女子は千人中僅かに四人の比であります。其他尙、青黄盲と稱するものは青と黄が無色に見えるもので男女共極めて稀であります。

色盲が何故に起るかは今日尙不明であります。恐らく或る種の基本的

感覺の缺損或は色覺性原基の發育不全に因るものと信せられて居ります。

色盲は殆んど全部先天性のものであります。換言せば遺傳によりて生れながらにして色盲である者が多いので、生後、色盲を發生すると云ふことは殆んどありません。それ故、「良き子寶」を得るが爲めには斯かる色盲患者の子女とは、なるべく縁組せない方がよろしい。

色盲は前述の如く、主として男子に多く、且、子孫に色盲の遺傳素因を傳ふる者も主として男子であります。即夫婦の内、父親が色盲であると假定せば此兩親の間に生れたる子供は色盲となることが多い。而も男の子に色盲患者が多く出ます。女の子は色盲を免れ得ることが多いです。之の女の子が他に嫁して男の子を生むと又々色盲が現はるゝことが

あります。即色盲の遺傳素因は頑強に子々孫々にまで傳はり易いものであります。

然らば色盲患者を發生せし家系の人々は避妊法を講じて子孫を絶滅すべきであるか否やと云ふ疑問を生じます。之は誠に重大なる問題でありまして、深く考慮せねばなりません。

色盲患者その人の不幸は云ふまでもありませんが職業の選擇如何によりては比較的愉快に人生を送ることが出来ます。即色彩に關係の少ない職業に就くならば大なる支障を來しません。例へば農業、牧畜、山林、文學、宗教、等の方面ならば不便を感ずることが必ずしも多大ではないであります。只、畫家、圖案家、織物業等、色彩を以て生命とする職業には絶對に適しません。又、軍艦、商船、汽車、電車、自働車等の乗

組員、運轉手等にも適しません。何となれば赤色の危険信號を認むることが出来ない故、自己一身の危害を避けることが不可能なるのみならず他人の重大なる生命にも不測の禍害を及ぼす恐れがあるからであります。

故に色盲患者と雖も以上の點を顧慮して適當なる職業を選擇するならば、比較的、愉快にして安全なる人生を樂むことが出来ます。故に色盲の遺傳素質を有する夫婦も敢て避妊法を講じて淋しく冷たき冬の如き家庭に泣くの必要も無いと信じます。世上には著明なる色盲患者でありながら偉大なる事業を完成せる名士も少なくありません。斯かる天賦を有すべき偉人の卵を暗より暗にと葬り去ることは、誠に社會人類の爲めにも遺憾の至りではありませんか。

(一一一) 近視の遺傳

近視は之を學術的にむつかしく説明せば眼軸が長きに過ぐる爲め、網膜が焼點の遙か後方に位する如き眼であります。換言せば眼の光線屈折力強くして射入光線が網膜よりも遙に前方に於て燒點を結ぶ如き眼であります。故に凹レンズを以て作りたる眼鏡をかくれば光線の屈折を補正し得て、正しく物體を見ることが出来ます。

一般に近視眼は小兒期には少なく學校特に大學時代に細字を多讀するに及んで近視となる者が多いのであります。故に近視の最大多數は遺傳によつて生ぜしもので無く各自の勉學の結果後天性に生ぜしものと云ふ

ことが出来ます。

近視眼の多數は前述の如く後天性に起るものであります。稀に先天性即生ながらにして近視の傾向を帯ぶる人があります。斯かる不幸なる子供は小學校時代より既に強度の眼鏡を用ひなくては、本を讀むことも、黒板の文字をも讀むことすら出来ません。之を我慢して更に高等の學校に進む時は遂に網膜剝離症を惹起して失明するに至るの恐れがあります。従つて、如何に學業優秀の兒童と雖も斷然學事を放擲し、悲しく生き甲斐なき人生を送らねばならぬことゝなります。斯くの如き高度の近視眼は多くの場合、遺傳的に現はれたるものでありまして、父母或は祖父母等に甚だしき近視者を發見し得るのであります。或は又、血族結婚の結果として現はるゝこともあり得ます。之に關しては尙他章に於て詳

く述べませう。

要之、近視は其素因が遺傳せらるゝことがありますから、甚だしき近視の遺傳素因ある家系との縁組みは避けた方が萬全の策であると思ひます。但、勉學の爲め其人一代にて生ぜし軽度の近視の如きは、後代に遺傳素因を傳ふる如き恐れはありません。それ故、結婚の相手を選択するに當りても、果又、優良なる子實を設くる點より論じても何等の差支へはありません。

(一三) 血友病の遺傳

血友病とは血液の凝固性が乏しく、僅かの負傷或は手術に際しても出血が容易に止らないで多量の血液を失ふ様な一種の體質病であります。我々健康なる人々にありては少し位の出血ならば、出血部の血液が忽ち凝固して、固くなり、血管破裂部を蓋ふてしまひますから出血も自から停止するに至りますが血友病のある人は容易に止まりません。それ故、一二本の齒を抜いたり扁桃腺を手術する如き僅かの原因によつても多量の出血を來し、貧血を來し、脈搏微弱となり、患者自身は勿論醫師も周章狼狽することがあります。

血友病の原因は勿論前述の如く血液の凝固性に乏しきにあります。何故に斯くの如き現象を起すかの確實なることは尙不明であります。現今では單に遺傳的に來るものであると説明されて居ります。

血友病は以上の如き病症のものであります。實際には非常に少なく、特に日本に於ては幸にして極めて稀である様に思はれます。故に結婚問題に當りても左程重要視するの必要を認めません。又、不幸にして結婚後夫妻の何れかに血友病あるを發見せしめて致命的の打撃ではなく敢て恐るゝに足りません。只、手術負傷時等に萬全の手當を施せば宜しいのであります。

血友病は主として男子に現はるゝものであります。面白いことには、血友病の遺傳物質そのものを子孫に傳ふるは女子であつて男子でありま

せん、故に血友病を病める男子が他の健康なる女子と結婚せば子孫は健全であります。反之、血友病の遺傳を有せる女子は、假令、女子其人は健康なる如きも遺傳物質は有して居るのであります。若し他人の男子と結婚して男子を生めば其生れたる男子は血友病を發現することがあります。要するに遺傳の傳はり方に一種特有なる趣きあるは學問上誠に興味深き事でありませすが實地社會上の問題としては、左程重大視し憂慮するには及びません。

(一四) 糖尿病の遺傳

糖尿病とは體內に於ける糖分の新陳代謝が完全に行はれない爲め、糖の一部分がそのまま尿中に排泄せらるゝ如き疾病であります。故に糖尿病患者の尿を取りて檢糖法によりて試験しますと明かに糖分の含有せらるゝことを證明し得ます。糖尿病は輕症であれば敢て恐るゝに足りませんが、之が重症となりますと糖尿病性昏睡に陥りて死することがあります。又、肺結核、肺炎其他各種の合併症を惹起し易い危険があります。糖尿病の原因は未だ完全に判明して居りませんが多くの場合、膵臓の疾患に原因して居ります。即ち膵臓のランゲルハンス氏島と稱する細胞

群から一種の内分泌物、即ち「ホルモン」を産出して之を血中に送り、之が全身を循環して糖の新陳代謝を促すものであります。然るに膵臓が病氣になつて其機能が衰へると膵臓ホルモンの産出も亦減少して遂に糖尿病を惹起するに至るのであります。

俗、糖尿病は前述の如き病氣でありますが之が往々遺傳的に現はるゝことがあります。但、糖尿病そのものが遺傳するのではなくして將來、動もすれば糖尿病を惹起し易いと云ふ一種の素因が子孫に傳はるのであります。然し乍ら必ずしも是等の素因を有せる子孫が一定の年齢に達して糖尿病を發現するとは限りません。只單に往々にして遺傳的傾向を認むることがあると云ふに止まるのであります。其程度は精神病の遺傳程には濃厚でありません。

然らば結婚問題の如きに當り糖尿病は如何に取扱へば宜しきやと云ふに、相手の家系を調査するに當り、糖尿病の素因があるや否やを一應調べる必要はありますが、萬一、其素因があるらしく思はるゝとも單にそれのみで破談にするに及ばないと思ひます。勿論、無きは有るに勝ることを云ふ迄もありませんが、他の條件さへ満足であるならば單に之の點のみでは敢て大なる差支へは有りません。

又、不幸にして結婚後、斯かる素因あるを發見せば適當なる注意によりて其發現を豫防し且、子孫への遺傳素因をも或程度まで絶滅することが出来ます。元來、糖尿病の原因は前述の如く膵臓ホルモンの産出機能減退によりますが其誘因となるものは多くは運動不足と美食であります。所謂飽食暖衣にして而も運動を怠る時は榮養過多となり、榮養分特

に含水炭素の燃焼不完全となり遂に血中の糖分が過量となりて本病を惹起するに至るのであります。従つて糖尿病は一名贅澤病とも云はれ上流の生活をなす人々に特に多い傾向があります。

故に糖尿病の素質ある人々は未だ發現せざるに先ち、常に適當なる運動を怠らぬ様心懸け食物も適宜にし、斷じて飽食暖衣無爲無能の生活を送らぬ様注意せねばなりません。

若し又、萬一、糖尿病に罹つたならば信用ある醫師の治療を受け之を根治せしむることが肝要であります。嚴密なる食餌療法と合法的なる日常生活法とにより之を治癒せしむることは左程困難ではありません。近時、動物の膵臓から抽出せる「インスリン」なる藥品が公けにされて居りますが、之は遺憾ながら一時的の對症療法藥たるに止まり根治藥とし

ての價値はありません。故に飽くまで食餌療法と日常生活法の改善によりて其目的を達せねばならぬのであります。

(一五) 尿崩症の遺傳

尿崩症とは尿量が異常に多く排泄せらるゝ疾病であります。即通常
の健康なる大人の一日中の尿量は男子にありては平均一〇〇〇—一五〇
〇瓦、女子は平均九〇〇—一二〇〇瓦であります。然るに尿崩症患者
は一日數リートの尿を排泄し、従つて水を飲むことも之に比例して多
く、丸で、水を飲んで小便し、小便しては又水を飲むと云つた風であ
ります。

尿崩症の病因に就ては色々な説がありますが、確實なることは尙不明で
あります。遺傳的傾向も幾分か存するものと一般に認められて居りま

す。

然らば結婚問題に當りて吾人は如何なる態度を取ればよいかと申しま
す。元來、之の疾病は比較的稀なる病氣であるのみならず必ずしも
遺傳病であるとは断定出来ません。それ故、特に尿崩症の有無等に就て
調査し、之によりて結婚の決定を左右すると云ふ程の重大事では無いと
信じます。

若し又、不幸にして結婚後、尿崩症に罹りたる時は早く適當なる治療
を受けて根治せられん事を希望します。現代の醫學では「ホルモン」劑
或は臟器製劑によりて之を治療せんとの傾向があつて屢々著效を奏して
居ります。故に早く其病根を去り、子孫への遺傳物質を絶滅せねばなり
ません。

(一六) 畸形の遺傳

畸形とは俗に云ふ片輪であります。然し、負傷疾病等によりて手足を
切斷されたり、或は眼球を摘出されたりした片輪とは異なります。

畸形は遺傳的に生ずることが多くあります。其中で最も多いのは兔唇
即俗に云ふ「三つ口」であります。元來、人體が胎兒として發育する
初めは左右對等の組織が中央に於て相合する部分が多いのであります
が、不幸にして上唇或は上顎の相合することの不充分なる時に往々兔
唇を生ずることがあります。故に兔唇の子供は生れ乍らにして上唇或は
上顎に裂溝がありまして恰かも兎の上唇の様な状態を呈して居ります。

兔唇は往々にしてよく子孫に遺傳し、甚だしきは數人の子女に悉く兔唇を生せるものもあります。故に兔唇の遺傳的素因ある家系との結婚は出來得る限り避けた方が宜しい。之れ優良なる子寶を得んとするに最良の方法であります。

然らば若し、夫婦間に斯かる遺傳素因あるを發見したならば如何にせば良いでありましょうか。現今の醫學では之を未前に防ぐことは遺憾ながら到底不可能であります。故に萬事は天運に任せ自然の成り行に従ふ方がよろしい。敢て避妊法を講ずるの必要を認めません。萬一、不幸にして兔唇の子供が生れたならば可成、幼年時に於て、然るべき外科の大家に美容手術を依頼せられんことをお勧めしたい。之によりて殆んど完全治癒することが多いのであります。

其他の畸形としては手又は足の指の短かき者、指の互に癒着せるもの、指の數が多いもの、等があります。是等は何れも甚だ稀でありますから敢て心配することはありません。又、萬一、かゝる畸形兒が生れたとしても適當なる外科手術で、或程度まで治療することが出來ます。

其他、侏儒と云ふ畸形があります。俗に所謂「一寸法師」であります。又、之と反對に巨人と云ふ畸形もあります。即異常に身體の巨大なものであります。然し是等は何れも甚だ稀でありますから結婚問題に關聯して左程重大視するに及びません。

(一七) 壽命の遺傳

昔から我國にも「あの家は長生のそんだ」とか「あの家は奇妙に若死のそんだ」とか云ふ言葉が心なき田夫野人の間にも交さるゝのを見聞します。之は學問的に云へば「長壽の遺傳」或は「短命の遺傳」であります。壽命の長短は或程度まで子孫に其素因が傳はることは事實であります。之を廣く動物界に見ましても其壽命が長きは數百年に及ぶ種屬もあれば又、短かきは數日に過ぎないものもあります。俗に鶴は千年、龜は萬年とも申します。又、生命の短かきを「かげろう」に例へたる歌は數限りもありません。人の壽命は平均三十歳乃至五十歳でありまして、人生

七古來稀なりとさへ申します。況んや百歳以上の高齡を保つことは至難とされて居ります。然し乍ら一般的に云へば優良なる家系の人々は肉體精神共に頑健聰明でありまして、其祖先を調査しましても代々古稀以上の長壽を保ちたることを明かに證明し得ることが多いのであります。反之、劣悪なる家系にあつては三十或は四十の壯年に於て仆ること多く誠に人をして奇異の感をさへ懐かしむることがあります。素より之を精密に學術的調査を行ふならば、よく其原因を發見し得て疑問を解決し得るであります。即或家系には結核性素因の遺傳があり、又他の家系には腦溢血或は癌の遺傳的傾向のあるを發見し得ることもあります。然し乍ら又、確實に之を證明し得ない場合もありまして、單に短命に終ると云ふ丈けしか判明しないのであります。是は恐らく短命の遺

傳的素因に原因するものと考へられます。即現代の醫學では未だ充分の説明を與へ得ない或種の缺陷が子々孫々に遺傳せるものと想像せられます。

故に優良なる子質を得んとするの目的には結婚に當り、能く相手方の家系を調査し、短命の遺傳的傾向の有無を探らねばなりません。若し明かに斯かる傾向あるを證明し得たならば結婚談は寧ろ中止するが宜しいと思ひます。

若し又、不幸にして結婚後、夫婦の何れかに、斯かる短命の遺傳的素因あるを發見せば、人事の限りを盡して其眞原因を追求し、其病因を明かにしてその病症が發現せざるに先ちて適當に之を豫防し、更に進んで體質の改善を計りて、遺傳的素因を絶滅し、愛する子孫への遺傳を防

がねばなりません。

(一八) 血族結婚の害

血族結婚とは血縁の近き人々との間に行はるゝ結婚でありまして、一名、近親結婚とも稱します。

血族結婚が頗る有害なることは醫學界一般に認めらるゝ定論でありまして、血族結婚によりて生れたる兒童には、特に先天性聾啞が多いのであります。之に關する研究は歐米及本邦に於ても數限りなく多數にありまして何れも之を證明して居ります。例へば我國の盲啞學校の生徒に就ての調査によりますと左の如くであります。

聾啞總計 二百二十六人

内、兩親の血族結婚によりて生れし者五十人(二二、一%)
血族結婚の種類は

- 叔父と姪……………二組
- 從兄弟……………三十三組
- 再從兄弟……………七組
- 從兄弟の娘を妻とせる者……………六組
- 遠き血縁の者……………二組

又、金杉博士の東京耳鼻咽喉科醫院の患者に就ての調査によれば左の如くであります。

兩親の血族結婚によりて生れし者三十五人(一九、五%)
血族結婚の種類は

- 叔父と姪……………三組
- 從兄と弟……………二十四組
- 再從兄弟……………四組
- 遠き血縁の者……………四組

故に以上の如き統計上より觀察するも血族結婚なるものが如何に有害であつて、先天性の聾啞を生ずることが明かであるかを知るべきであります。

血族結婚は以上の如く先天性聾啞を生ずる危険が多きのみならず、其他に尙、白痴、低能、畸形、腺病質、眼病等の子供が生るゝことも比較的多いのであります。又、特に之と云ふ缺點なき如く見ゆる子供でも短命にて夭死をする人が多いのは一般の認むる處であります。

斯くの如く血族結婚によりて何故に劣悪なる子孫を生ずるに至るかの眞の原因は尙不明であります。恐らく、血族結婚によりて生物としての缺陷が益々著しくなり、反對に優越せる點が消滅し行くものと考へられます。之に關する研究は各種の方法によりて行はれて居りますが最も興味ある一例を述べて見ますと「ぞうりむし」に就ての研究であります。之は學問上では「パラメチウム」Paramacium と稱しまして、池中、溝等の不潔なる水中に棲める下等動物であります。之の「ぞうりむし」を枯草「わら」等を煮出した汁で培養しますと短時日の間に驚くべき數に繁殖します。而して之の蟲は肉眼にて辛うじて見ること出来れば又、弱擴大の顯微鏡で見れば非常に明瞭に見得るのでありますから實驗に非常に便利であります。今之の蟲を最初、二疋丈け一つの器に取りて培

養し、之から生れた蟲を次から次へと培養しますと初め活潑優勢なりし「ぞうりむし」も代を重ねるに従つて、衰弱劣勢なるものとなりて遂には全部死滅するに至ります。然るに今若し、死滅するに先だつて、他の場所より採集せし「ぞうりむし」を混入してやりますと其子孫は再び勢ひをもり返し立派なる「ぞうりむし」となることを實驗せし學者があります。本實驗は下等なる動物に就て行はれしもの故、直ちに之より推論して人類にても斯の通りであるとは斷言し難きこと勿論でありますが、而も或程度まで、血族結婚の害を證明し得らるゝ一實驗例であると論じ得ることゝ信じます。

故に吾人が婚姻の對手を選むに當りては、能く是等の點に注意を拂ひ、出來得る限り血族關係の近き親戚間の結婚を避けねばなりません。現

時、我國の法律も之の點に着目し近親結婚を禁じて居りますが、之は、血族結婚中の必ず避くべき最小限度を示せるものでありまして、法律に觸れざる範圍内と雖も尙、事情が許すならば血族は避けた方が得策であります。

本邦にては血族結婚は貴族、或は地方の富豪、舊家と稱せらるゝ階級の間の特に多く行はるゝ風習があります。之は結婚に際し、家の格式、門閥、財産等を餘りに重要視し、其結果、配偶選擇の範圍が著しく制限せらるゝから遂には、血族間の結婚を餘儀なくせらるゝに至つた爲めであります。又、昔は遺傳學の如き進歩せる思想の無かつたのも一原因であります。従つて、本邦に於ける先天性聾啞は貴族富豪或は舊家と稱せらるゝ階級に特に多いのであります。

故に結婚に際しては法律により當然禁せられて居る如き血族結婚は必ず避くべきは勿論、法に觸れぬ範圍と雖も出來得る限り近親間相互の結婚は忌避すべきであります。然し實際に於ては、家庭の事情、浮世の義理人情等複雑なる周圍の理由によりて強ち理想論のみを主張するの困難なる場合もあること、想像されます。斯かる際には、能く理論と實際とを參酌考慮して、誤らざる正しき判断を下し、之の主義の下に婚約を結ばるゝことを希望します。

近親間の結婚が有害なること前述の如くであります。然らば著しく血縁の異なる者との結婚は如何でありますか。例へば同じ大和民族間でなく、白人或は黒人の如き所謂、異人種間の結婚は果して良好でありましょうか。之を多數の醫學者及人類學者の説に徴しまするに異人種間

との雜婚によりて生れたる所謂、混血兒なるものは一般に容貌及體格共に優秀で、双方の美點を選みて具備するを常としますが精神的には一種の變調を帯ぶる者が多いことであります。之は恐らく事實であると考へられます。試に吾人の日常見聞する混血兒に就て考ふるも容貌秀麗で體格偉大なる人は多いけれども只精神的には何となく、水に油を混じたらんが如き或種の物足らなさを覺ゆるは事實であります。

(一九) 精神的性質の遺傳

肉體的の諸性質、例へば、畸形、疾病、又は疾病に罹り易き性質が子孫に遺傳せらるゝ事は前に述べたる如くであります。處が遺傳學上より論じますと斯く、肉體的の性質が遺傳せらるゝのみでなく精神的性質も亦子孫に遺傳せらるゝのであります。故に兩親或は祖先の優良なる性質も、劣悪なる性質も共に幾分かは必ず遺傳されます。

例へば頭腦の透明俊敏なる英材の子孫には又、俊才逸足の士を出すことの多きは古來の歴史が之を證明せるのみならず、現代に於ても斯かる實例を見聞することは多々あります。之に關し嘗て英國の有名なる碩學

ゴルトン Galton は英國の著名なる家系に就て遺傳的關係を調査して不朽の名著「天才と遺傳」Hereditary Genius (一八六九年) を公けにして居ります。即英國に於て後世に芳名を残せる如き貴族の子孫には多く又、英俊の士を輩出せることを其記録家譜等に基きて調査せるものであります。但、英國は特に門閥を貴む國であり、平民の出身では容易に社會の上層に浮み上りて英名を擧ぐる事が出来難い習慣があります故、從つて貴族の子弟が名を成し易いと云ふ點もありますから、ゴルトンの説は幾分割引して考ふる必要はあります。然し乍ら大體に於て優良なる精神的性質が子孫に傳はることは充分之を承認し得られます。我國に於ても有名なる學者の子に親にも優る如き英材を生せるの實例も少なくありません。然し乍ら昔から英雄の子に不肖なる愚物を生じ、或は名門に遺兒

の出づることの多きも人の認むる處であります。これは主として英雄色を好み酒を好むが爲めに折角の優良なる遺傳物質が障礙せられたる爲のと考ふることが出来ます。

以上の如く優良なる精神的性質が遺傳するのみでなく、それと同様に不良劣悪なる精神的性質も亦子孫に遺傳します。殊に低能白痴、犯罪性等は多く遺傳します。又、彼の成績劣等兒、不良少年、不良少女の如きも多くは之に原因します。尤も親が異数の英才であり、或は、人格高潔の士でありながら、斯かる不良兒の生ずることも事實であります。之は恐らく、生後の家庭教育の缺陷、交友の不良等による外圍の事情に因るものが多いと思はれます。不良性の遺傳に就ての實例に常に擧げらるゝものは彼のチューク「Three」なる家系であります。即紐育にチュークな

る悪漢夫婦がありました。が何代かを經て千二百人の子孫に繁殖した。然るに其中三百十人は放浪生活をなし、四百四十人は病弱勞働に堪へずして養育院の厄介となり、百卅人は重罪犯人となり、六十人は盜賊となり、七人は殺人罪を犯し、婦人の半数は密娼婦となつたとの事であります。我國に於ても強盜、殺人、放火、乃至、詐欺、竊盜の如き罪を犯せる者又は淪落の女などに就て其原因を調査するに勿論、かくならしめたる社會の罪もあるでしょうけれども、其多くは劣悪なる遺傳素因を兩親より受け継げる爲めに當然の結果として、茲に至りし者もあります。是等は其罪をこそ憎むべきであります。斯かる運命を負はされて此世に送り出されし數奇なる境遇には一掬の涙なくてはなりません。寧ろ、かくの如き不良劣悪なる遺傳素因を子孫に傳へし兩親をこそ憎むべきではありません。

ませんか。

斯くの如く、精神的性質は善悪共に子孫に遺傳せらるゝものでありますから、婚姻の相手を選むに當りては、よく、其家系全體を調査し、優良なる精神的性質の遺傳ある家系を選択し不良なるものは之を避くること肝要であります。

又、既に結婚生活に入れる夫婦にありては務めて精神修養に勵み、優良なる性質或は性格を愛見に傳へんと願はるべく、不徳、不良性等は斷じて遺傳してはなりません。之れ良き子實を得るに極めて肝要なる心得であります。

以上は遺傳の學理と實際に就て述べ、特に結婚問題に際して相手方の選擇方針、及、優良なる子實を設くるの道、如何を力説したるものであ

ります。

然し乍ら多くの讀者は恐らく茲に一大疑問を提出せらるゝのであります。即斯くの如く各種の方面に亘りて精査審議するならば完全無缺なる候補者を探し求むることは、恰も濱の眞砂の中より「ダイヤモンド」を探るが如く、到底不可能なる事業ではないか、斯かることは云ふべくして到底行ひ得ざる机上の空論、學者の閑文字に過ぎぬではないかと、誠に貴問の如くであります。實にこの現世は心のまゝならぬことのみ多く、如何なる家系と雖も之を最も精細嚴密に調査するならば、そこに何等かの缺陷あるを發見せないことはまづ無いであります。宏壯なる金殿玉樓に住むブルジョア階級の家庭にも、雨漏るいぶせき賤が伏せ家にも、忌むべき、果た厭ふべき、疾病の遺傳的素因の何等かは必ずや潜

めるものと思はねばなりません。それ故、單に理想論のみを強調し主張するならば遂には、結婚不可能に終るを免れません。又、主張する當人自己も恐らくは完全なる結婚條件に叶つて居ないでありましょう。茲が理論と實際との困難なる交叉點でありまして、如何にして其調和點を見出すべきか、苦心を要する處であります。

私は是れに就て次の如く考へます。即

(一)結婚問題に當りては出來得る限り相手の家系及本人の狀態を調査する。

(二)之の嚴密なる調査を基礎として、此處に記述せる各種の事項に照合して熟慮討議すること。

(三)問題の輕重、周圍の事情等を綜合して理論と實際との誤らざる調和

點を發見し之によりて最後の判斷を下すこと。

であります。又、若し不幸にして結婚後、各自の缺陷を發見せし場合には既に述べたる如き適當なる方法を遺憾なく實行し、所謂禍を轉じて福となすの心懸けが無ければなりません。

斯くてこそ、良き子實を得るの道が開ける次第ではありませんか。

三 良き子寶を得るには結婚の時期を
注意せねばならぬ

遺傳論に於て私は如何にして配偶の選擇を最も合理的に行ふべきかを述べました。然し乍ら如何に理想的の配偶を選擇し得ても、若し結婚の時期にして誤らんか、我等の目的たる優良なる子寶を得ることは到底不可能に終る恐れがあります。恰も優秀なる草花の種子を得ても之を花園に播くの季節を誤ると同じ結果となるのであります。然らば我々日本人の男女にありては何歳を以て適當とし、且、其年齢の差異は何歳が最も

合理的であるでしようか。

凡結婚の年齢時期等に關しては歐米先進國には無数の調査報告等があります。然し乍ら白人と我等大和民族は著しく生理的の體質を異にし彼の所論を、そのまゝ吾人に適用することは合理的でありません。故に必ずや我々日本人に就て其體質を基礎として立論するのみならず、深く我國古來の風俗習慣、及現時の社會制度、教育の狀態等を顧慮し彼是、參酌したる議論でなければなりません。

(一) 日本人の結婚に適當なる年齢

吾々日本人は何歳の頃、結婚するのが最も適當でありませうか、之は前述の理由により良き子實を得るに最も大切なる事柄と云はねばなりません。

凡そ、女子が結婚の可能性を得るのは春機發動期、即ち破瓜期以後であります。この時期に達すると卵巢の發育によつて「ホルモン」の内分泌機能が高まり、月經が來潮し、卵子は成熟して排卵機能を開始せられ、精神的にも特有の變化を來すものであります。破瓜期の年齢は人種によつても違ひ、氣候によつても支配されますが、日本婦人に於ては統計上

平均満十四歳八ヶ月乃至十ヶ月となつて居ます。従つて多くの日本婦人は、この前後に於て破瓜期に達するものと見て差し間へがありません。然しこの時期は漸くその機能が行はれ得るに至りし第一楷梯を示すだけであつて、未だ完全なる發育を遂げ得たものと云ふことは出来ません。それから猶一二年を経て始めてその機能が完成するに至るのであります。獨逸の或學者は、この破瓜期をば更に『固有の破瓜期』と『結婚破瓜期』との二つに分けてゐます。即固有の破瓜期とは、單に月經が來潮して外觀上成熟したるに止まり内部生殖器官は未だ眞の發育を遂げて居りません。例へば果物ならば漸く熟しかけた時の状態で未だ食べるには早いのであります。結婚破瓜期とは内部生殖器官を初めとし一切の身體器官が完全なる發育を遂げたる時期で、果物で云へば充分に熟した時

にも比すべきものであります。獨逸婦人に就ての研究によると前者は平均十四歳後者は平均十六歳であります。即月經初潮後約二ケ年を経て初めて眞の成熟を遂ぐるものと思はれます。すると、我が日本婦人にあつては、満十六歳乃至十七歳にもなれば既に結婚し得る肉體的可能性を得ることが明かであります。

然らば、この年齢が果して理想的の結婚年齢でありましようか。私は之に對して『否』と斷言したのであります。その理由は現今の教育制度によると、この年齢では未だ完全なる學校教育を終了し得ないことがある。又、家庭的の訓練修養も完備しない恐れがあります。又、この年齢では嫁して後、身神の勞苦に耐ふるには未だ餘りに纖弱であることもあり、母親の年齢があまりに若ければ、優良な子孫を擧げ得ないことは

遺傳學の教ふる處であります。

以上、種々の理由から考へて私は日本婦人の最も適當なる結婚年齢は満十九歳即ち數へ年の二十歳前後であると信じます。

次は男子の結婚年齢であります。男子も亦、一定の年齢に及べば春機發動期に達し、肉體的にも精神的にも、男子特有の發達を遂ぐるに至るのであります。それは翠丸に於て産出せらるゝ内分泌物即ち「ホルモン」の刺激に原因するのであります。その時期は日本の男子では普通十七八歳と見て宜しい。然らばこの年齢が理想的の結婚年齢であるかと云ふとさうではない。この年齢では男子は未だ肉體的に完全なる發育を遂げて居りません。従つて遺傳學の教ふる如く、この年齢では優良なる子孫を擧げ得ないことが多いのは明かであります。又、當人の教養から見ても

この時期は未だ修學の最中であつて他を顧みるの暇なく、全「エネルギー」を學事に傾注するを以て正當とします。又、男子の結婚は經濟上の獨立を要件とすべきであるが、まだこの時代では妻子を扶養し得ないのが普通であります。

斯ういふ譯で、何の方面から考へても男子の春機發動期を以て直ちに理想的の結婚年齢とは稱し得ません。故に第一には肉體的に完全なる發育を遂げ、第二には高等の教育を完了し、第三には經濟上の獨立を得、又、第四には「ホルモン」の刺激によりて思はず花柳の巷に足を運ぶが如き危険を避け得る爲め約二十五歳を以て最も適當なる結婚期であると断定します。

以上、述ぶる如き理由により、我が日本の男女は、男子二十五歳、女

子二十歳前後を最も理想的結婚年齢と信じます。世上には「年まはり」とか「合性」とか色々迷信が行はれて居りますが、之は學理的に何等根據の無いものでありまして、寧ろ之が爲め配偶を採る範圍が狭くなり、却て優秀なる相手を得ずして、遂には色々な缺點を忍んでまでも、話を調へなければならぬことゝなります。當人同志の不幸は云ふまでもなく實に其家庭全體の不仕合せと云はねばなりません。又、優良なる子實を得ると云ふ吾人の最大目的にも叶はないことゝなります。

(二) 早婚の弊害

早婚は男女共に異常に早き年齢にて結婚することを云ふのであります。例へば女子十四五歳、男子十七八歳にて結婚する如き之であります。斯かる早婚は今日の日本には漸次減少しつつありますが昔の時代には之が普通であつたのであります。それは主として生活が非常に安樂なりし爲めと、一日も早く子孫を得て家系の保存を安全ならしめんとの考へでありし事と思はれます。

然し乍ら早婚の弊害甚だしきは、醫學上明かな事實でありまして嚴に之を戒めねばなりません。何となれば第一には優秀なる子實を得難いこ

と、第二には両親たるべき夫婦の健康を障碍し易いからであります。即ち男女共に漸く懐春期に達したる時期にありては未だ完全なる肉體的及精神的發育を遂げたとは申されません。従つて、斯かる不完全なる両親より生れたる子に優良なる者少なきは遺傳學上理の當然であります。恰も若い果樹に立派な實を結び難いのと同じであります。

又、両親にとりては肉體の浪費によりて身體を障碍し、精神の疲勞によりて完全なる腦力の發育を害する恐れがあります。

早婚の例として最も有名であるのは印度人であります。一九一一年の統計によりますと、印度に於ては五歳以下の女房が實に三十萬人餘あつて十二三歳頃までには必ず夫の家に入り、完全に性生活を初むることの事でありませぬ。又、朝鮮に於ても八、九歳にして結婚する者が多く、性生

活も之に準じて早きは想像に難くありません。従つて早婚に因る弊害は必ず伴はるゝものと思はねばなりません。

(三) 晩婚の弊害

晩婚とは著しく婚期の遅いのを云ふのでありまして例へば男子四十歳、女子三十歳にて初めて婚姻を結ぶ如き之であります。晩婚は未開野蠻の國よりも寧ろ文化を誇る國民間に多い様であります。それは多く修學の期間長さと、生存競争が激烈なる爲め生活の困難甚だしきに原因します。

晩婚は種々の點に於て弊害がありますが其主なるものを數ふれば左の如くであります。

(一) 男子は永き獨身生活の爲め、結婚前既に花柳の巷に足を運べる者

多く、之が爲め花柳病に冒され、飲酒の悪癖に感染せる人々が多い。従つて結婚後、夫婦生活に破綻を來し易く、生兒も亦不良なるものが多いのであります。

(二) 女子も亦永きオールドミス生活の爲め性格に一種の變調を帶び、初々しき女性的性質を缺ける人が多く之が、兎角、結婚生活の圓滿を缺くに至る原因となり易いのであります。其他、出産に際し子宮及産の伸展性が減少せる爲め難産を來し易いと云ふ恐れがあります。

(四) 男女年齢の差異

我々日本人の最も適當なる結婚年齢は、男子二十五歳、女子二十歳前後であること前述の通りであります。然し乍ら複雑なる社會の實際に於ける事情としては必ずしも之の理想通りに行はるゝものではありません。或は家庭の事情により或は勉學の都合により多少の遲速を生ずることでありましょう。それ故、以上は單に理想論としても、せめて男女の年齢の差、即夫婦年齢の連り合ひだけでも一定の比を保つ様注意せられんことを希望します。

生理學上の見地より論じますと男女年齢の差は五歳乃至十歳を以て適

當と信じます。即男子が二十五歳ならば女子は二十歳であり、或は男子が三十歳ならば女子は二十五歳乃至二十歳であるを要します。若し甚しき年齢の差異がありますと結婚生活に不満不足を生じ易きのみでなく、優良なる子寶を設くる點より論じても多大の缺陷があります。例へば夫は既に壯年期を過ぎて五十歳に近き人であり、妻は花も恥じろ二八の若さであると假定しましょう。そこに何で精神的及肉體的の完全なる一致がありましょうか。又、夫妻の年齢が同一であると假定しまして結婚當座こそ格別のこともなく圓滿なる家庭であるとするも、やがて十年も経過せば男子は益々男性固有の男性美と一種の壯重を加へ來るに反し、妻の容姿には早くも凋落の兆しが現はれ初め、茲に結婚生活のひびが入り初むといふ様な事もあります。

故に是等の點を能く鑑みて男女双方の年齢の差と云ふことに深き注意を拂ふことが肝要であります。

四 良き子寶を得るには胎教に注意せねばならぬ

胎教とは胎兒の教育と云ふ意味であります。換言せば妊娠中の胎兒に對する精神的教育と云ふ意味であります。

母親の感情が或程度まで胎兒に作用することは非認し能はざる事實と想像せられます。之れ古來、胎教の高唱せらるゝ一原因であります。されば朱子の小學にも、

「古、婦人子を妊めば寢るに側せず、坐するに邊せず、立つに

蹕せず、邪味を食はず、割して正しからざれば食はず、席正しからざれば坐せず、目邪色を視ず、耳淫聲を聴かず、夜は則ち瞽をして詩を誦し正事を道はしむ。此の如くならば則ち生子形容端正、才人に過ぐ』

と説いてあります。其他、之に類する傳説、金言、諺等も枚舉に違がありません。甚だしきは到底科學上、首肯し得ざる如き奇蹟に類する物語りさへあります。例へば我國にて「妊婦が火事を見れば生れ出づる子に赤いほやけがある」とか、又、西洋にて「好きな畫像を見て居ればそれに顔形まで似たる子供が出来る」と云ふ如き説は之を現今の醫學上より考察すると到底説明が出来ないのであります。

斯くの如く古來洋の東西を問はず語り傳へらるゝ説は必ずしも全部信

ずることは出来ませんが然し、或程度までは確かに眞理であると思ひます。只、之を説明するに現今の科學の不備不完全を嘆ずるのみであります。私は之に就て次の如くに想像します。

凡そ胎兒と母體との間には直接の神經的連絡は現今の醫學上では之を認め得ませんが、血行は完全に連絡して居ります。それ故、母體の精神的激動は必ずや何等かの方法によりて母體の血液を介して胎兒に影響するものと想像せられます。例へば母親が非常に物に驚いた瞬間には心臓の鼓動に變調を來しますから、血液流通にも變化を生じ、之が胎兒に影響することもあり得べきことでもあります。又、甚しき憂慮悲痛等に沈める時は、母體の榮養上にも變調を來しますから之が胎兒に影響することもあり得ます。又、母親の感情が激動すると各種の内分泌物質即ちホ

ルモン」Hormon の産出状態に變化を呈します。就中、副腎にて産出せらる「アドレナリン」Adrenalin の如きは感情の動搖によりて著明の増減を來すものであります。凡、是等の生理的變化より推考すれば母親の胎兒に及ぼす影響は或程度まで説明がつきます。然し乍ら以上を以て必ずしも全部を説明し盡し得たるものでなく、恐らく他に尙、微妙にして複雑を極むる天工が藏せられ、吾人の窺ふを許さぬ神祕が存在するに相違ないと信じます。

要するに胎教の原理は今日、尙、遺憾ながら不明であります。而も或程度まで母親の感情が胎兒に影響し得ることは嚴として動かし難き事實であります。それ故、母性として「良き子實」を得る爲めには必ずや之の點に充分の注意を拂ひて胎教を完ふせねばなりません。而して私の

最も熱望し且、注意したきは左の事項であります。

- (一) 妊娠中は務めて精神を安靜に保ち、甚だしく喜怒哀樂の感情を亢奮せしめてはなりません。
- (二) 務めて精神的修養を行ひ、邪淫、殘酷、不正等の感情をそゝるが如き見聞讀書等を避けねばなりません。
- (三) 夫たり、舅姑たり、小姑たる人々は能く妊婦を敬愛し、いたわりて胎教を完ふせしめねばなりません。之れ實に女性その人に對する愛の表現のみでなく、やがて生を此世に享くべき愛兒への最高至大の責任であります。

以上は主として精神的方面より見たる胎教であります。此他に尙、肉體的にも完全なる注意を拂ふことが肝要であります。特に直接胎兒に

影響する如き事柄に甚大なる注意をせねばなりません。例へば、飲酒の如きはアルコール成分が母體の血液に混じて胎兒に達し之を障害するの恐れある故、慎まねばなりません。又、激しき運動、過激なる勞働、長途の旅行、粗惡なる食物、日光の不足、不潔なる空氣等、是等は皆、直接間接に胎兒に不良なる影響を及ぼします。

子寶なき人々への福音

以上、私の述べ來りしことは、夫婦間に當然子寶の生るべきものと假定し、只「如何にして良き子寶を得べきか」に着目して之を力説したのであります。然し乍ら廣き世上には良き子寶も悪い子寶もなく初めから更に熱望せる愛兒の生れない夫婦もあること、信じます。私は是等、氣の毒なる家庭の參考として、私の信ずる處を述べて見たいと思ひます。

(一) 子寶なき婦人の悲み

白銀も黄金も玉もなにかせむ

まさされる寶子に如かめやも。

とは、子寶の尊さを歌へる有名なる古歌ではありませんか。又、

まづしくて子寶もなきこのごろは

消なば消ぬべきわが身なるかも。

子を欲しと思ふはうべかいつはりか

四十七年子なくてすぎぬ。

うつくしきマント纏ひて學校にゆく

誰が子ぞ吾子といはまほし。

さりげなく浴みする妻子は無くて

大きな乳房湯になぶらする。

孫を欲り老いゆく父と母の御手に

寂しかるべき正信偈かな。

とは子寶なき近代詩人某氏のいつはらざる胸中を述べたるものであります。

凡人は何人たるを問はず「活ける自己の延長」たる子寶を永遠に後世に傳へたき慾望を有するものであります。この情は天地の間に生を享くる總ての生物の等しく有する本能でありまして、空を翔る鳥も、森に棲む獸も、何等の變りはありません。ましてや萬物の靈長として感情の

デリケートなる我々人間は之を熱望すること誠に想像に餘りあること、云はねばなりません。故に不幸にして子實なき時は無上の煩悶痛苦に沈むは正に理の當然であります。特に婦人に取りては重き運命的打撃でありまして、母親としての限りなき幸福を味ひ得ざること、姑舅の迫害輕侮を甘受せねばならぬこと、愛する夫の不快を忍ばねばならぬこと等、幾多の精神的苦痛は積り積りて遂には「ヒステリー」「メランコリー」の如き疾病にさへ陥り、世をはかなみ人を恨み、味氣なき人生を餘儀なくせらるゝに至るのであります。特に本邦の如く、古來血統を尊び、家系保存を重要視せる國にあつては子實なきは眞に絶望的の不幸とせられたのであります。従つて苟も婦人にして石女たらんか如何なる輕侮も迫害も、暗涙を呑んで忍従せざるを得なかつたのであります。而も現代の醫

學が教ふる處によれば不妊の最大原因が女子よりも寧ろ男子の側にあるを思へば、罪なくして配所の月を眺め、訴ふる處なくして不遇の生涯を終りし幾千萬の石女に對し滿腔の熱涙を注いで同情せざるを得ません。子實を熱望するの情は舊に我國のみでなく洋の東西を問はず、時の古今を論せず皆同一であります。歐洲の歴史を繙くに、古代に於ては女子の不妊を以て、神々の婦人に對する一種の刑罰なりと信じ居たるが如くであります。而も其刑罰は不妊の夫婦に對しては無く、妻に對する刑罰と考へて居たのであります。例へばオーガストス大帝 Augustus は女子二十歳以上に達して尙子無きものは刑に處すべきを命令し、當時の法律及宗教は不妊の責任を總て女子に歸して居ります。

又、「マホメット」教の行はるゝ國々にあつては不妊の女子はたとひ如何に富裕なりとも神々より天罰を蒙れる人なりとて夫より離婚せられ、世人よりは排斥せらるゝこのことでもあります。其教典たる「コーラン」Koran には、「神はそのお思召によりて婦人を不妊ならしむ」と宣言し、又、「癩病患者と盲人と石女とは打殺せ」と明記しある由であります。實に何たる亂暴なる經典ではありませんか。

土耳其にては三人の娘と四人の男子を生むことは上帝の最も美はしき賜であると思ひ、自から世界最大の幸福者なりと思つて居ります。又、斯かる婦人を讃美せる詩歌小説の類も非常に多くあります。反之、子實なき貴婦人の悲嘆を歌へる詩歌も少なくありません。従つて土耳其に於ては石女たることが離婚の最大原因を爲して居ります。

獨逸古代の法律では妻は夫の陰萎たる場合には之を理由として離婚を請求し得たる代りに夫は妻の石女たることを理由として之を離縁し得たのであります。

獨逸古代の諺にも

『我等が王妃に願ふもの

美と賢と子實よ』

„ Von einer Königin, verlangt Mann dreierlei,

Schönheit, Klugheit, und Fruchtbarkeit.“

と云ふ句があります。以て如何に古代より子實を重要視せしかゞ明でありましよう。

獨逸の詩聖ゲーテ Goethe の歌に

「子實なき婦人は如何に不幸なることよ、

彼女は母となり、母たり得ん爲めに、

醫師より醫師に、博士より博士に徨ひ歩く」

との一節があります。現時の歐米婦人は子實に對する慾望なく盛んに

「バスコントロール」を實行せる如きも其半面には憐むべき石女が如

何にして子實を得んかど病院より病院へ轉々として受診せるかは多くの

醫學者の承認せる處であります。

支那にありては聖人七去の教への一ヶ條に「女子嫁して三年、子無け

れば則ち去る」とあります。然し何たる無慈悲なる聖訓であります。

又之の教への我國に渡來せしより封建時代には之を唯一の金科玉條と

なして、不妊の妻を放逐し、敢て罪惡と信せなかつたのであります。世

は明治大正と遷りても此風習依然として行はれつゝあるは實に嘆すべき
の限りではありませんか。嗚呼、天に在つては比翼の鳥、地に在つては
連理の枝たらんを樂しみし甲斐もなく、子實なきの故を以て放逐せられ、
紅淚漣々として天に訴へ地に哭するも詮方なきは何たる悲惨事でありま
しょう。

私は嘗て、過去及現代の女性が不妊に對して如何なる思想を有し、又、
社會には如何なる事が行はれしかを知らんと欲し聊か調査せしことがあ
りますから其一端を記述して見たいと思ひます。

古代の石女が子實を熱望して人事の限りを盡したる後、或は初めより
願望せしものは神佛の加護であります。従つて神佛に仕ふる神官僧侶は
彼等に種々の靈符を授與して居ります。私の手中に存せる記録中興味あ

二三の例を示せば左の如くであります。

○子を授くるの靈符

二聖

如月光明能除諸幽冥

妙法蓮華經

斯人行世間能滅衆生闇

二天

表に書くには

安樂産福子

授與

裏に書くには

充滿其願師檀信念第一

大日天子

自在所欲生鬼子母十女神

日蓮大士

安樂産福子三十番神

大日天子

解に曰く

月の如くに光明にして、能く諸の幽冥を除く。斯の人世間を行て能く衆生の闇を滅す。自在欲する所を生む、鬼子母十女神。安樂福子を産む三十番神、其願を充滿す。

○懷妊するの靈符(守り札)

此聞香力故知其初懷妊
南無文寶如來

南無妙法蓮華經

鬼子母神守

南無釋迦牟尼佛

我今當與安樂産福子

三十番神

大日大王

✧守護三寶十羅刹女

上書に之を書くこと

解に曰く

此に香力を聞くが故に、其の初めの懷妊たることを知る。我れ今當に安樂にして福子を生むを與ふべし。

○子に縁なき男に掛けさする靈符

爲呪業生救

五番神

鬼子母神

八幡大菩薩福子得

鬼子母神

十番神

爲呪業生救

○子に縁なき女に掛けさする靈符

南無多寶如來

十羅刹女

大日天王

妙法蓮華經

悉是吾子中鬼子母神

南無釋迦牟尼佛

大日天王

十羅刹女

悉是吾子是真佛子

觀音經(又は普門品とも云ふ)には左の文句があります。

若有女人、設欲求男、禮拜供養

觀世音菩薩、便生福德智慧之男

設欲求女、便生端正有相之女

即其意味は「若し又女人ありて男子を懷妊せんとて觀世音菩薩を禮拜し供養せんか、即其の女人は必ず福分もあり智慧もある男子を生まん、又、女子を懷妊せんとして此の觀音を念すれば即ち、端正なる有相の女子を生まん」との意味であります。従つて不妊の女性が斯かる經を有り難しとして一心に念じたることも想像せらるゝ處であります。

其他迷信の極、愚にもつかぬ偶像淫祠の類を禮拜し祈願せし例證も頗る多々あります。之は多く生殖器崇拜の形になつて現はれて居ります。

例へば日光某社の子種石、鎌倉八幡社前の政子石（陰石）鹽釜神社の子種石の如きは男女の局部に肖たる石を神體とせるもので子なき婦人の禮拜絶えぬものであります。又、尾張の田畑の神では年毎の祭禮に陽物を描いた大輶を擔ぎ出して奇怪極まる行列をする由であるが平素は人知れず下の病氣に苦しむ人、或は子授けを祈願する婦人が參詣するのとどこであります。越後の國には羅石大明神と稱する神様があつて其神體は長さ三四尺の飴色の天然石であるが遠近の石女は茲に來つて子を祈り求むる由であります。又、越中國日石寺には誕生石と云ふ石があつて子なき婦人が之に祈れば必ず妊娠するとのことで、嘗て前田侯の姫君がこの石を懷いて初めて妊娠されたと云ふので特に著明であります。其他之に類する迷信、傳説等は數限りもありませんが一一茲に記する

ことが出來ません。文明の進歩せし今日に於ても斯かる風習が絶滅しないのみならず、暗々裏に増々盛大になりつゝある傾向が見ゆるのは何を意味するでありましょう。之れ皆、石女の熱望に應じて出現せる時代の反映ではないでしょうか。

(二) 不妊症が如何に多いか

然らば斯くの如き不幸なる石女が世上果して幾何の数あるかと云ふに、實に吾人の想像せる以上多きに驚嘆する程であります。本邦に於ける統計によりますと平均二二―二四のの不妊症があります。換言せば百組の夫婦の中で二十二乃至二十四組までは子寶のなき淋しき人々であります。而も上流社會に此傾向特に著しく中流社會之に次ぎ下流社會には少ないので其比は三〇・二四・一三であります。俗に「貧乏人の子澤山」と言ふ諺は學術上の研究成績と能く一致して居ります。西洋に於ける統計の結果も大體に於て日本と等しいのであります。

然らば、何故に、かく上流社會に不妊症が多いかと申しますと其原因の大半は男子側にあると思はれます。即その有り餘れる財産と、高き地位と名譽とは、動もすれば折花攀柳の樂みに誘ひ易く、之が爲め遂に花柳病に冒され、更に之を可憐なる妻に及ぼす人々が多いのであります。又、上流社會の婦人が動もすれば運動不足の爲め身體虛弱に陥ることも大なる原因であります。反之、下流社會に於ては日夜營々として筋肉勞働に従ひ、而も金錢及時間に何の餘裕もありません。従つて、家庭は比較的清淨に保たるゝこと、及、夫妻共に上流社會に比し肉體の強健なること等が多産の原因となるのであります。

(三) 不妊症とは何か

不妊症とは結婚生活を多年に亘りて營むも、不幸にして妊娠し得ざる如き病症を云ふのであります。即健康なる婦人は結婚生活により當然妊娠するを以て生理的現象と致します。一般に結婚後十一箇月乃至十五箇月以内に第一回の妊娠が行はるゝことが多いのでありまして、洋の東西、人種の如何を問はず統計上、大體一致して居ります。結婚後三箇年を経るも尙、妊娠の兆候なき時は、稍、不妊症の疑ひを起さねばなりません。かの「女子嫁して三年、子無ければ則ち去る」の支那の教へは偶然にも統計上の結果と一致して居ります。故に斯かる

夫婦は或は不妊症に非ずやとの疑問を懷いて、密かに其對策を考ふる必要があります。

不妊症は之を學問的に申しますと更に二種類に區別することが出來ます。即

- (一) 絶對的不妊症
- (二) 比較的不妊症

之であります。絶對的不妊症とは、結婚後最初より絶對に妊娠し得ない症であります。最も不幸な淋しき人々であります。比較的不妊症とは一度妊娠するもそれ以後絶對に妊娠しない症でありまして斯かるものを一名、一兒不妊症とも稱します。以上の如き不妊症が何故に起るかに就ては次に詳しく説明します。

(四) 不妊症の原因

凡、子實の無き人々は先づ其原因に溯ぼりて攻究せねばなりません。現代の進歩せる醫學の教ふる處によれば不妊の原因は常に女子に存せるのみでなく否、大部分が男子にあると云ふも過言ではありません。古來、我國にては不妊の責任の全部を妻に負はせ、諺にも「畑の悪しきは六十一年の不作」と歌はれて居ります。之は實に女性を侮辱せるの甚だしきもので苟も近代の教育を受けたる女性の黙すべきでなく大に起つて男性に反抗すべき重大なる問題であると信じます。嘗てプリンチング氏は不妊の夫婦の四〇%乃至四六%までは其責任が男子にあるを發見し得べ

しと論じました。而もそれは單に男子側に直接の障害ある場合を擧げしに止まり、男子より女子に不妊の原因を傳染せしめたる場合、例へば麻疹性疾患の如きを加算せば、殆んど全部、其罪が男子にありと斷言するも過言ではありません。

以下、私は男女に存する不妊の原因中主要なるものを列擧して見たいと思ひます。

(甲) 男子に原因の存する場合

(一) 兩側睪丸缺如 之は睪丸が兩側共無きもので、先天性即、生れながらに缺如せるものは極めて稀であります。多くは後天性、即、生後に負傷疾病等によりて摘出されたるもので、生殖の能力なきは勿論であります。斯かる人に睪丸移植術を行ふて生殖力を恢復せしむることは

現今の醫學では尙不可能であります。但、動物試験の結果は明かに成功して居りますから近き將來には人類に於ても必ず成功し得るものと確信されます。

(二) 一側睪丸缺如 之は左右何れか一方の睪丸が缺如せるもので多くは手術の結果、一方の睪丸を摘出されたるものであります。例へば負傷、結核性睪丸炎等の如きに往々一側睪丸摘出術を執行します。一側睪丸缺如症に於ては残留せる他側睪丸さへ健全ならば不妊症を來す如きことはありません。私の知人にもかゝる症候でありながら數人の秀れたる子寶を有せる者があります。反之、若し残留睪丸も何等かの症候を呈せるならば不妊の原因を爲すことが少なくありません。

(三) 睪丸潜伏症 之は睪丸がその生理的位置たる陰嚢内になくし

て、腹腔内に残留せる如き疾病であります。元來、睪丸と云ふものは胎生児の時代には胎兒の腹腔内に位せるものであります。胎生九ヶ月目の頃から漸次、下降し初めて陰嚢内に達するものであります。然るに何等かの障礙によりて睪丸の下降が妨げらるゝと腹腔内又は鼠蹊管内に残留することがあります。斯かる潜伏性睪丸にありては精蟲の産出能力が全然なきか、或は極めて不完全であります。従つて不妊症の原因となることが多くあります。故に睪丸潜伏症の疑ひある人は醫師の診断を受け、手術によりて之を正常なる位置即陰嚢内に引き下げんことを希望します。之によりて能く其機能を恢復せしめ得ることが多くあります。

(四) 睪丸異常細小症 之は睪丸の發育が不良で異常に細小なるものであります。其大きさは正常なる睪丸の約二分の一にも達しません。之は

先天性にも亦後天性にも起ることがあります。斯かる睪丸は精蟲の産出能力少なく不妊の原因をなすことが屢々あります。それ故、かゝる患者は睪丸の「ホルモン」製剤を用ひ、榮養療法を行ふ等の方法によりて睪丸の發育を計らねばなりません。

(五) 精蟲缺乏症 之は男子側に存する不妊の諸原因中、痲毒性疾患と共に最も多い疾病であります。本症は精液中に精蟲が全然存在しないか或は極めて稀れにのみ存在せる病氣であります。試みに斯かる患者の精液を顕微鏡下に検査しますと、一疋の精蟲すら發見し能はぬことさへあるに一驚を喫することがあります。故に他に何等の認むべき原因なきに困む際は、必ず精液の鏡檢を行ひて精蟲の存否如何を調査することが肝要であります。但、精蟲缺乏症は絶對的なることもあれば又、一時的なるこ

ともあります。それ故、單に一回の診斷のみで斷定することは出来ません。必ず數日を距て、數回之を試むる必要があります。精蟲缺乏症の原因が何れに存するやは發見し得ざることが少なくありません。時に睪丸の外傷、重き全身病、過劇なる勞働、精神的過勞、荒色等が其原因ならずやと想像せらるゝ場合があります。

故に不妊の原因を探るに當りては必ず精液の顕微鏡檢査を忘れてはなりません。之は醫師に依頼するもよく、若しそれが恥しければ自分で精液の一滴を顕微鏡下に檢するも宜しい。若し原因茲にありとせば宜しく、其病因を考へ適當なる療法を施したる後、尙、再三鏡檢することを勧めします。

(六) 精液缺乏症 之は精液を排出し得ざる病症でありまして、其原因

は睪丸の器質的變化、攝護腺の疾病、痲病、脊髓の疾病等に原因するこ
とが多くあります。故に療法としては其原因たる疾病を治療せねばなり
ません。

(七) 痲毒性疾患 本症は不妊症の最大原因を爲すものでありまして、
常に男子側の主要原因たるのみならず更に痲菌を女子に傳染せしめて多
くは絶對的不妊症に陥らしむるものであります。

男子が一度、不潔なる肉交によりて痲菌に感染しますと、痲毒性尿道
炎となり、之を放置し、或は不適當なる治療を施しますと痲菌は却
て深部に向つて侵入し、攝護腺炎、副睪丸炎、睪丸炎等を惹起します。
之が爲め、攝護腺は其分泌物を排泄することが出来なくなり排泄しても
其性質が悪しくなつて却て精蟲を殺すことになり、副睪丸が冒さる

と精蟲の輸送を妨げますから精液中には精蟲が居ないことになりま
す。睪丸が冒さるると精蟲の生産が障礙されます。斯くの如くにして遂
に不妊の原因となるのであります。元來、痲菌の撲滅は非常に困難なる
ものでありまして現今、各種の療法が考案されて居りますが根治療法と
も稱すべき價値あるものは一つとして存しません。故に痲毒の感染は最
も恐るべき疾病の一つであります。

痲毒菌は男子にとりて重大なる不妊の原因たるのみならず更に之を妻
に感染せしむる點に於て更に恐るべきものであります。即夫より傳染せ
し痲菌は先づ子宮を冒します。元來、女子の生殖器中、子宮の内膜は痲
菌の繁殖に向つて絶對の培養基とも云ふべきものであります。即、第一
に子宮の粘液は弱アルカリ性を帯びて居り、第二は常に一定の溫度を保

つて居り、第三には榮養分に豊富なること等、是等は何れも麻菌の發育繁殖に何よりの好都合なる條件であります。それ故、麻菌が一度、子宮内に侵入せば直ちに恐るべき麻毒性子宮内膜炎を惹起します。然して麻菌が更に子宮壁の深部に侵入せば子宮實質炎又は子宮周圍炎を起します。又、更に上行せば輸卵管炎、卵巢炎を生じ遂には淋毒性の腹膜炎を惹起するに至り生命の危険にさえ瀕せしむるに至ります。又、子宮より下降せば麻毒性膣炎となり、尿道に傳染して麻毒性尿道炎となります。斯くの如くにして女子をして不妊症に陥らしむるに止まらず絶大の苦痛を與へ時に生命をさへ犠牲たらしむるに至るのであります。

(乙) 女子に原因の存する場合

不妊の原因は男子のみならず、女子にも亦存すること勿論であります。

然し乍ら之には二様の區別あるを忘れてはなりません。即女子が先天性或は後天性に女子自己の原因によりて不妊と爲りたる場合、及女子が病毒其他を男子より受けて受動的に不妊となりし場合はであります。而も實際に於ては男子より麻毒を受けて不妊症となりしもの大多數を占むるを思へば不妊の責任を論ずるに當りては頗る慎重の態度を持たなければなりません。今、女子の不妊の原因中主要なるものを擧ぐれば左の如くであります。

(一) 兩側卵巢缺如 之は兩側の卵巢が全然缺如せるもので、先天性

即生れながらにして存在せざる者は極めて稀であります。後天性のものは手術により摘出せらるゝことは頗る多くあります。斯かる婦人が不妊なること勿論であります。之が療法としては卵巢移植術を行ふ外あり

ません。本法は動物試験では完全に成功します。又、人類にても成功し且、子寶さへも設け得たる報告があります。例へば嘗て、ドクトル・ステーファンソンは子供の無き或る白人夫婦の爲めに、其婦人の卵巣全部を摘出して、其跡に黒人の卵巣を移植せしに、白人夫婦の間には其後間もなく混血児が一人生れたとのことであります。然し實際に於ては如何に大金を積むも卵巣を分譲しやうと云ふ婦人もないでしょうから、此療法は仲々困難と思はねばなりません。

(按に面白き問題は、卵巣の移植によりて生れたる子供は果して誰れの子供でありましようか、即、眞の母親は卵巣を供給したる婦人でしょうか、將又、卵巣を移植された女で死も角、法律上より論ずれば、卵巣の供給を受けて移植されし婦人こそ眞の母親である、其理由は卵巣の移植手術を受けたる瞬間に其所有權は完全に其人に移るからであるとのことであります。之は實に興味ある問題であると思ひます)

(二) 一側卵巣缺如 之は左右何れか一方の卵巣の缺如せるもので、先天性には少なく、多くは手術の結果摘出されたるに原因します。之の場合必ずしも不妊症を起すことはありませんが往々にして子寶なきことがあります。

(三) 卵巣の發育不全 之は卵巣の發育が不充分なる病症で、かゝる婦人は多く、子宮の發育も不全で、月經の開始遅れ、經血量も少く不定时で殆んど三四ヶ月間も休止することさへあります。療法としては卵巣ホルモン製劑を用ゆること、一般の榮養を高むる等であります。

(四) 卵巣炎 兩側卵巣に炎症のある場合には不妊の原因となることが多くあります。之れ卵巣を害するのみならず、卵巣組織そのものを害して卵子の形成を妨ぐるが故であります。それ故、卵巣炎の患者は出來

得る限り早く専門大家の診療を求め、根治せしめ置くことが肝要であります。

(五) 喇叭管の疾病 喇叭管とは卵巣より子宮に向つて卵子を輸送する管であります。故に一名、輸卵管とも稱します。之の喇叭管に炎症があると管腔が閉塞せられ或は内面上皮の變化を來すが爲めに卵子の輸送を妨げ、或は精蟲の侵入を不可能ならしむるが爲め不妊症の原因となります。本病は痲毒菌に原因することが特に多くあります。故に喇叭管炎は早期に治癒せしむる必要があります。而して左右何れか一方にても治癒せば妊娠の可能性があります。

(六) 子宮全欠 之は子宮の全く缺如せるもので先天的には稀で多くは手術により摘出されるのであります。斯かる婦人に妊娠能力無きこと勿

論で、療法もありません。動物試験では子宮を移植することが出来ますが人類では今尙不可能であるのみならず之を供給し呉る、婦人もありません。

(七) 子宮の發育不全 之は子宮の發育が頗る悪しき病症で、其原因は主として卵巣の發育不全にあります。故にかゝる婦人は卵巣ホルモン製剤を用ひ、該ホルモンの作用によりて子宮の發育を計らねばなりません。

(八) 子宮の位置異常 凡そ正常なる子宮は膈の方向と直角をなせるものであります。種々の原因により前屈或は後屈することがあります。所謂、子宮前屈、或は子宮後屈と稱するは之であります。斯く子宮の位置が病的になると、子宮の血管を壓迫し、血液の循環を害するが故、子

宮は榮養不良に陥り、又、精蟲の子宮内侵入を妨害する等の爲めに遂に不妊症の原因となることがあります。但、子宮の位置異常は必ずしも常に不妊の原因となることなく時に妊娠し得ることあるは勿論であります。然し乍ら、他にも種々の身體的及精神的障害を惹起し易きものでありますから治療を受くる方萬全の策であります。

(九) 子宮内膜炎 之は子宮の内膜に炎症を起す病氣で其原因は主として痲毒菌の傳染であります。本病は不妊の諸原因中最も多きもので、粘液の分泌多量となり且、其性質が異常となる爲め、精蟲の侵入を妨げ且、之を殺すが故、不妊となること極めて多いのであります。故に本病に罹れる婦人は必ず適當なる根治療法を受けて治療せしめなければなりません。且、婦人自身が治療を受くるに止まらず男子も亦之れと同時に痲

菌の絶滅を計らねばなりません。所謂源流を清めずんば千年河清を待つも甲斐なしとは之のことでありませぬ。

(五) 不妊症の夫婦は如何すればよいか

然らば不妊症の夫婦にして、而も玉の如き愛兒を熱望せらるゝ不幸なる人々は如何にせば良いでありましょうか。之れ當然起るべき疑問であると思ひます。

不妊症の原因は前述の如く、婦人にのみ存する譯ではなく、否、大部分の責任は直接或は間接に男子側にも存するのであります。故に之が對策を講ずるに當りては宜しく男女共に協同一致して勉めねばなりません。

先づ第一に男子側に就て申しますと、不妊の原因は多く淋毒に存する

のでありますから萬一、其疑ひがあらば完全に之を根治せねばなりません。然も淋毒の治療法たるや極めて困難でありまして現代の進歩せる醫學を以てするも之が根治は容易の事業ではありません。故に必ずや信頼するに足るべき専門の大家に就て完全なる合理的の治療を受くる必要が有ります。決して一時的の效果のみなる怪しき賣藥などで安心してはなりません。又、所謂治療と稱して自分で洗滌する如きことをしてはなりません。之が爲めに淋菌が死滅しないのみならず却て淋菌を尿道の奥へ奥へと追ひやつて遂には攝護腺炎、精囊炎、副睪丸炎、睪丸炎等を惹起するに至ります。斯く深部にまでも侵入したならば之が根治は非常に困難なるを免れません。故に萬一、不幸にして淋毒に冒されたならば一日の猶豫もなく専門醫家の懇切周到なる治療を受くることをお勧めし

不妊、最も多い原因は、

之れ不妊の最大不幸を免るゝ唯一の方法であります。

又、痲毒其他自分には何等思ひ當る如き原因なくして然も不妊症に困

む人々は宜しく精液の検査を受くることをお勧めします。實際に於て、

精蟲缺乏症は驚くべき程多いのでありまして、強健無比の如き體格を有

せる男子でさへ、其精液を鏡檢するに及んで精蟲の全缺せるに驚く事が

しばしばあります。精液の検査そのものは極めて簡單でありまして、且、

之を醫師に依頼することは決して恥べきことでは有りません。尿や糞便

の検査を頼むのと何の變ることも無いのであります。

以上は不妊症に苦む男子の先づ試むべき一大眼目であります。此他、

全身の器官に亘りて精細なる診査を受くべきこと云ふ迄もありません。

斯くして男子側に存する不妊の原因を探求したる後、婦人の側を探るべ

きであります。

婦人の側に存する不妊の原因は既に述べたる如くであります。故に信

頼すべき婦人科専門の大家に就て詳細なる診査を受け其眞原因をつき止

め、適當なる治療を受くる事が肝要であります。

斯くて男女共に其眞原因の存する點を突きとめ之が適切なる對策を講

ずることが最も必要であります。其他に向、密かに告げたいことがあ

ります。それは夫婦の愛情であります。

凡、人として夫婦の愛の純潔濃厚なるべきは云ふ迄もありませんが、

子寶を設くる點に於ても非常に影響があります。勿論、廣く世上を見渡

たしますと、更に愛情なく、冷酷の如き家庭にも多數の子寶のあるは

事實であります。之は少しも不可思議なることではなく、斯かる夫婦は

共に不妊の原因が存しないから當然に妊娠と云ふ生理的作用が冷静に科學的のプロセスの下に行はれたに過ぎません。斯く愛情なくとも生理的健康なる夫婦間には子實を恵まるとこと勿論でありますが、而も夫婦の愛が濃かであれば、それに比例して妊娠率の多いことも事實であります。之を詳細に述べると勢ひ閨房の祕事に觸るゝ恐れがありますので之を略します。

又、不妊の夫婦には適當なる強精剤を用ゆることをお勧め致します。即ち男子は、その生殖腺の旺盛を促す目的で睪丸ホルモン製剤の如きを連用し、女子は卵巢ホルモン製剤を連用せらるべきであります。睪丸ホルモン製剤は主として牛、豚等の新鮮なる睪丸を取り之に複雑なる理化學的操作を施して、有效成分を抽出せるもので、之によりて睪丸及他

生殖器官の發育を促し其機能を高むることが出来ます。又、卵巢ホルモン製剤も牛、豚等の卵巢より有效成分を抽出せるもので、之によりて卵巢、子宮、喇叭管等の發育を促し、妊娠を促進せしむることが出来ます。私は「ヴィスタリン」Vistalinと云ふ卵巢ホルモン製剤を考案し世に公けにして居りますが、之によりて妊娠したと云ふ報告も入手して居ります。私は必ず本劑が不妊症に效を奏するとは斷言致しませんが、學理上當然あるべき結果であると確信して居ります。

尚、以上述ぶる如き「ホルモン」製剤の他に「ビタミン」の豊富なる食物を攝取せらるゝことをお勧め致します。「ビタミン」A、B、Cの三者は共に動物及人類の生存に缺くべからざる重要な物質であること勿論であります。最近の學術的研究によると、「ビタミン」は「ホルモン」

とも極めて密接なる關係を有して居ります。即今、試みに試験動物に「ビタミン」を全然除去せる食物を與へて長時日間飼養して見ますと、該動物は「ビタミン」缺乏症を起して必ず仆れます。而して該動物の「ホルモン」産出器官例へば甲状腺、睪丸、卵巢等を摘出して調査しますと必ず萎縮せることを發見します。反之「ビタミン」に豊富なる食物例へば生まの卵黄、生まの牛乳等を多量に與へて飼育しますと旺盛なる發育を遂ぐるのみならず甲状腺、睪丸、卵巢等も特に著しく發達せるを認め得ます。是等の實驗成績によりまして「ビタミン」が如何に身體の發育生存に必要缺くべからざる物質なるかを知ると共に男女生殖腺の發達をも促すものであることを明かにし得たこと、信じます。

それ故、不妊に悩める夫婦は宜しく「ビタミン」の攝取をも心掛けね

ばなりません。然らば之の目的に何が最も宜しきやと云ふに、私は生まの卵黄であると斷言します。勿論「ビタミン」は卵黄のみならず牛乳野菜等にも多量に含有されて居りますが、牛乳は生まのまゝ飲用することとは危険であり又熱を加ふれば大部分の「ビタミン」は破壊せられます。野菜の中では、「トマトウ」「キャベツ」「ホーレンソウ」「チシャ」の如きは特に多量の「ビタミン」を有して居りますが之を料理するに當り幾分破壊せらるゝ恐れがあるのみならず四季何れの時にも食することは必ずしも可能であるとは云へません。然るに卵黄ならば生まのまゝ四季何れの時にも食し得るのみならず之には「ビタミン」A、B、Cのみならず蛋白、脂肪、磷、鐵等の榮養物質をも多量に含有して居りまして、一般の健康状態をも促進することが出来ます。尙、現時「ビタミン」製劑

なるものが多数に發賣されて居りますが若し健康なる人にして卵黄を用ゆるならば必ずしも是等高價なる薬品を服用するの必要は無いと信じます。

卵黄は以上の如く有効なるものではありませんが、之を無暗に多量食すると又、有害であります。即、卵黄中には腎臓に對して有害なる或物質を含有して居ります。私は嘗て之の有害物質の研究に従事しましたが卵黄中に含有せらる、「リポイド」の一種、即、類脂肪體と稱する物質が毒性作用を發揮するものとの結論を得ました。故に、健康なる人も一日約三個以内と限らるゝ方が宜しい。若し、不幸にして腎臓炎の有る人は遺憾ながら食せぬ方が宜しいと思ひます。尙、卵黄は必ず生まのまゝ、食することが肝要でありまして、若し之を煮沸すると「ビタミン」の大部

分は熱の爲めに破壊せられます。

以上、私の述べ來りました數々の注意をば最も忠實に實行せらるゝならば、假令、不妊に泣ける夫婦の間にもやがては、玉の如き優良なる愛兒を擧げ得べきは確信せらるゝ次第であります。然し乍ら斯くても尙、子實を擧げ得ざる不幸なる不妊の人々に對し最後の策をお教示致しましょう。之は即、人工妊娠術の實施であります。之に就ては章を更めて記述することに致します。

(六) 人工妊娠術の話

人工妊娠術は一名、人工授精術或は人工受胎術とも稱します。要するに男性の精蟲と女性の卵子をば天然の會合状態に放置しないで、之に人工的補助或は誘導を加味して天然に於ける受胎率よりも多からしむる術であります。

彼の魚類の如きも天然の孵化状態に放置する時は、波浪の障碍、他魚の侵食等によりて著しく孵化率が減少します。然るに人工孵化法を施して、精蟲と卵子との會合を助け、且、一定期間の保護を與ふれば殆んど一〇〇パーセントの孵化率を挙げ得ます。之の原理を基礎として現今、

日本及世界の各文明國に於て、各種の魚類、就中、鮭、鱒、鯉、鮎等を繁殖せしめつゝあることは既に周知の事實であります。

又、家畜の如きも、天然の受胎状態に放置せば、精蟲は腔粘液の酸性反應によりて殺され、或は子宮口への進入障碍により、或は子宮屈曲、精液漏出等種々の原因によりて受胎率が著しく減少するを常とします。例へば馬匹の如きは、英佛諸學者の報告によりますと平均四〇—七五%は受胎しません。換言せば妊娠不能に終るのであります。然るに適當なる人工妊娠術を施す時は、能く七八—一〇〇%の受胎率を收め得ます。之の原理に基き、現今にては馬匹の人工妊娠術なるもの盛んに行はれ、本邦にても陸軍種馬牧場に於て數年來之が實施を見、毎年頗る優良なる成績を挙げつゝあります。殊に從來、不妊症の牝馬として空しく放置せ

られつゝありし馬でさへ本法により、その大多數を妊娠せしめ得て經濟上、及軍事上頗る好結果を得て居ります。

以上は馬に就ての人工妊娠術でありますが其他尙牛、羊、山羊、豚、犬等の家畜に就ても行ひ得ます。私はかつて、犬に人工妊娠術を施して完全に成功せし實驗例を有して居ります。即、牡犬の精液を採取し、之を發情せる牝犬の子宮内に注入しましたる處、忽ち妊娠して正規の妊娠期間たる六十二日目に玉の如き仔犬が二匹生れ、美事なる成長を遂げたのであります。之の實驗によりて、私は人工妊娠術の可能性を愈々確信するに至つたのであります。

家畜以外の野獸例へば動物園に收容せる虎、獅子、狐、象等に就ても亦人工妊娠術を施し得べきは想像に難くはありませんが不幸にして私は

之に關する報告を耳に致しません。

以上、述ぶる如く、魚類の人工孵化法、及家畜の人工妊娠術等は何れも皆、優秀なる成績を收めて居ります。従つて之の理論を擴張して人類に及ぼせば、人類に於ても亦、正に成功すべき道理であります。

之を歴史に徴しますに、人類に初めて人工妊娠術を施せしは十六世紀の頃でありまして、羅馬法王の侍醫たりしオイスタヒオ Eustachio は密に某醫師の夫人に人工妊娠術を試みて成功したと傳へられて居ります。次で英國の有名なる醫師ジョン・ハンター John Hunter (一七九九年) は男子の精液を注射器にて女子の腔内深く注入して妊娠せしめ得ました。次で一八六六年に至り、米國の醫師マリオン・シムス Marion Simus は大に之を改良しました。又、同年佛國巴里のバジヨ Pajot は腔内に